

令和 6 年度
男女共同参画市民意識調査
報 告 書



京都市
令和 6 年 1 2 月

— 目 次 —

第1章 調査概要

1	調査目的	1
2	調査方法	1
3	調査内容	1
4	回収結果	1
5	調査結果報告書の見方	2

第2章 調査結果

1 男女共同参画社会について

(1)	各分野での平等感	4
(2)	男女平等に関する考え方への認識	7
(3)	子どもに身に付けさせたい能力	11
(4)	政策・方針決定における男女平等な参画	13
(5)	家庭内での役割分担	16
(6)	地域活動への参加	19
(7)	自治会や町内会での活動の状況	20
(8)	防災活動・復興への男女共同参画	22
(9)	男女の性差による健康課題への理解	23
	男女が互いの性差に応じた健康について理解し合うために大切なこと	24
(10)	職場での待遇の男女	25

2 真のワーク・ライフ・バランスについて

(11)	真のワーク・ライフ・バランスの実現度	28
(12)	真のワーク・ライフ・バランスの実現が難しい理由	29
(13)	「真のワーク・ライフ・バランス」を実現するために必要な取組	30
(14)	ハラスメントの認識	31
	ハラスメントを受けた際の対応	33
	ハラスメントを目撃した際の対応	35

3 配偶者・パートナーからの暴力について

(15)	どのような行為を暴力と思うか	37
(16)	配偶者等からの暴力に関する認識	41
(17)	被害経験の有無	43
	子どもによる認知	46

子どもの反応	47
(18) 被害経験時の対応	48
(19) 加害経験の有無	49
(20) 加害時の対応	52
(21) 面前DVの認知	53
(22) 京都市の相談窓口や施策の認知度	56
 4 困難な問題に対するサポートなどについて	
(23) 抱えたことのある悩みについて	59
(24) 困難な状況からの回復に必要なサポート	61
(25) 居場所がない人への支援について	62
(26) 困難な状況における相談方法	63
 5 京都市の取組について	
(27) ウィングス京都の利用経験	65
(28) ウィングス京都の利用目的	67
(29) ウィングス京都を利用しない理由	68
(30) 京都市が今後力を入れて取り組むべきこと	69
 6 自由記載意見	72

第 1 章 調査概要

1 調査目的

本調査は、京都市における男女共同参画に関する市民の意識や日常生活の状況等を把握し、京都市が取り組むべき課題と今後の施策の方向性を明らかにすることを目的として実施したものである。

2 調査方法

- (1) 調査対象：18歳以上の京都市民（1,000人からの回答回収を目途として実施）
- (2) 抽出方法：任意のインターネットモニターに対しスクリーニング調査を行うことで、回答数に占める年代及び性別の構成割合を、令和6年4月1日現在の「京都市住民基本台帳人口」における行政区ごとの構成割合（以下、「人口構成割合」という。）に合わせたもの。
- (3) 調査方法：インターネットモニター調査
- (4) 調査期間：令和6年10月18日～11月6日

3 調査内容

- (0) 回答者属性（SC1～8）
- (1) 男女共同参画社会について（問1～問10）
- (2) 真のワーク・ライフ・バランスについて（問11～問14）
- (3) 配偶者・パートナーからの暴力について（問15～問22）
- (4) 困難な問題に対するサポートについて（問23～問26）
- (5) 京都市の取組について（問27～問30）

4 回収結果

有効回答数 963 人

（内訳）男性 452 人、女性 505 人、性別については答えたくない 6 人

年代・性別		件数
18歳・19歳	男性	7
20歳代		58
30歳代		60
40歳代		76
50歳代		83
60歳代		60
70歳代以上		108
合計		452

年代・性別		件数
18歳・19歳	女性	11
20歳代		70
30歳代		60
40歳代		76
50歳代		88
60歳代		66
70歳代以上		134
合計		505

年代・性別		件数
18歳・19歳	答えたくない	1
20歳代		2
30歳代		1
40歳代		1
50歳代		1
60歳代		0
70歳代以上		0
合計		6

5 調査結果報告書の見方

- (1) 図中のN (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率(%)は回答者数(N)を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示しており、その結果、内訳の合計が100.0%にならないことがある。また、複数の回答を求める設問では、回答比率(%)の合計は100.0%を超える。
- (3) 本調査では一部、前回調査(下表参照)との比較を行っている部分がある。

前回調査	
調査名称	男女共同参画に関するアンケート
実施主体	京都市
調査対象	市内在住の満18歳以上の男女3,000人
調査期間	令和元年12月3日～12月19日
有効回収数・率	859人(28.6%)
調査方法	郵送配布、郵送・インターネットとのいずれかで回答

第 2 章 調査結果

1 男女共同参画社会について

問1 あなたは、次のそれぞれの分野について、男女は平等になっていると思いますか。

【それぞれ1つずつ○】

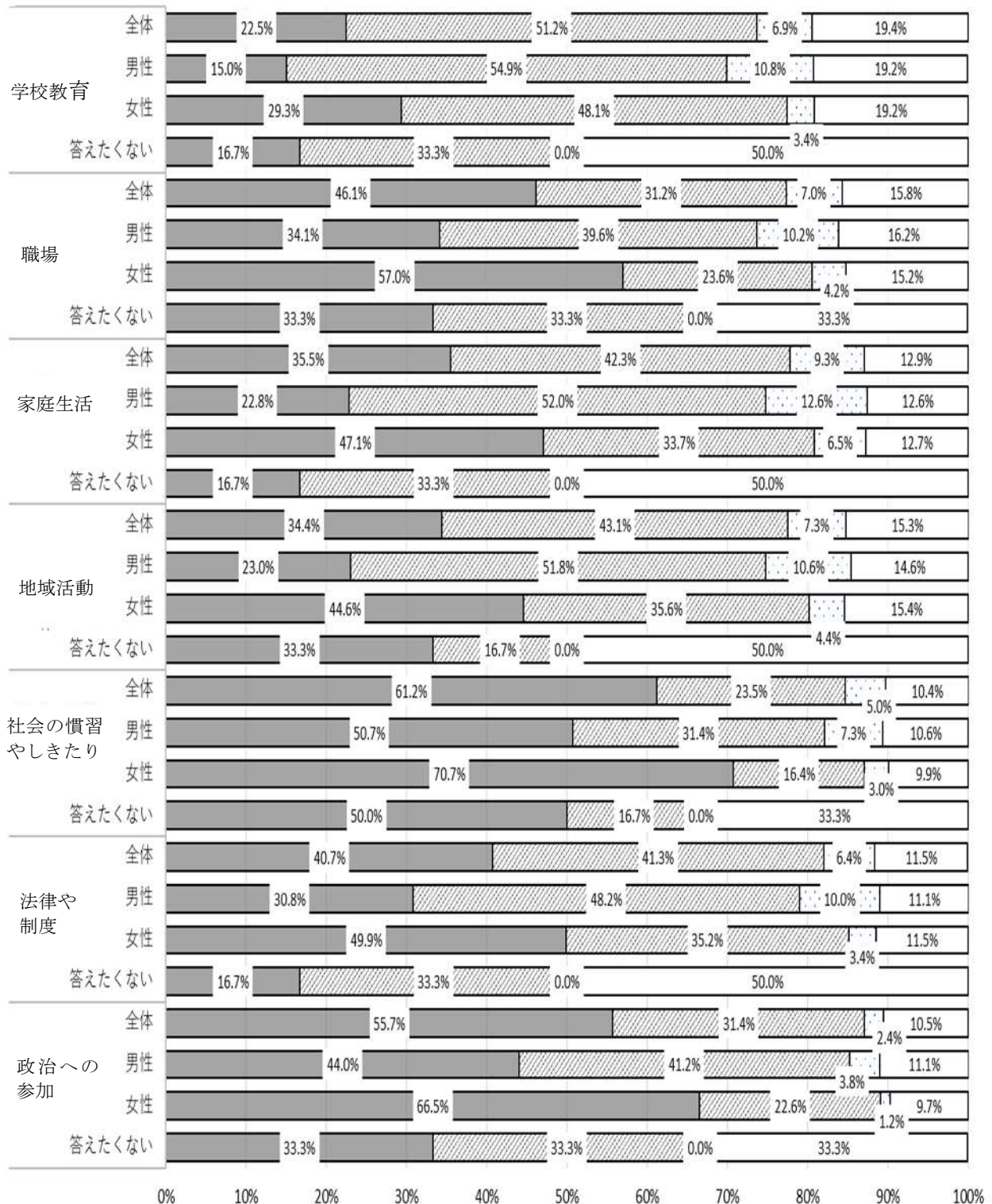
- 最も男性が優遇されていると感じられているのは、「社会の慣習やしきたり」。
- 次いで「政治への参加」、「職場」。
- 男女の意識の差が大きいのは、「家庭生活」、「職場」、「政治への参加」。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計では、「社会の慣習やしきたり」が61.2%と最も多く、次いで「政治への参加」(55.7%)、「職場」(46.1%)となっており、前回調査時と比べると、2位、3位が入れ替わった形となった。

一方で、男女が平等であると感じている人が最も多いのは、いずれの性別でも「学校教育」であるが、その割合は減少し、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計の割合が増加している。

いずれの項目を見ても、「男性が優遇されている」と感じているのは、男性に比べて女性が多い。特に男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」(24.3ポイント差)、「職場」(22.9ポイント差)、「政治への参加」(22.5ポイント差)。

【図表 1-1 各分野での平等感】



全体：963人、男性452人、女性：505人、答えたくない：6人

■男性の方が優遇 ■平等 ■女性の方が優遇 ■わからない・無回答

【図表 1-2 各分野での平等感】

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 〈前回〉 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今回				前回			
		男性 の 方 が 優 遇	平 等	女 性 の 方 が 優 遇	わ か ら な い ・ 無 回 答	男性 の 方 が 優 遇	平 等	女性 の 方 が 優 遇	わ か ら な い ・ 無 回 答
学校教育	全体	22.5%	51.2%	6.9%	19.4%	16.3%	58.4%	3.8%	21.4%
	男性	15.0%	54.9%	10.8%	19.2%	14.3%	62.2%	5.5%	18.0%
	女性	29.3%	48.1%	3.4%	19.2%	17.8%	56.2%	2.8%	23.2%
	答えたくない	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%				
職場	全体	46.1%	31.2%	7.0%	15.8%	61.2%	18.2%	7.9%	12.7%
	男性	34.1%	39.6%	10.2%	16.2%	58.4%	20.3%	11.6%	9.6%
	女性	57.0%	23.6%	4.2%	15.2%	63.5%	16.5%	5.5%	14.5%
	答えたくない	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%				
家庭生活	全体	35.5%	42.3%	9.3%	12.9%	48.0%	31.9%	9.8%	10.4%
	男性	22.8%	52.0%	12.6%	12.6%	30.5%	43.6%	14.5%	11.3%
	女性	47.1%	33.7%	6.5%	12.7%	61.1%	23.2%	6.7%	9.0%
	答えたくない	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%				
地域活動	全体	34.4%	43.1%	7.3%	15.3%	37.0%	34.1%	8.4%	20.5%
	男性	23.0%	51.8%	10.6%	14.6%	27.1%	45.6%	9.9%	17.5%
	女性	44.6%	35.6%	4.4%	15.4%	44.6%	26.7%	7.1%	21.6%
	答えたくない	33.3%	16.7%	0.0%	50.0%				
社会の慣習やしきたり	全体	61.2%	23.5%	5.0%	10.4%	73.8%	12.1%	3.2%	10.9%
	男性	50.7%	31.4%	7.3%	10.6%	68.3%	17.7%	3.8%	10.2%
	女性	70.7%	16.4%	3.0%	9.9%	78.9%	8.4%	2.4%	10.4%
	答えたくない	50.0%	16.7%	0.0%	33.3%				
法律や制度	全体	40.7%	41.3%	6.4%	11.5%	42.9%	36.1%	6.8%	14.3%
	男性	30.8%	48.2%	10.0%	11.1%	32.5%	47.4%	10.2%	9.9%
	女性	49.9%	35.2%	3.4%	11.5%	50.1%	29.1%	4.1%	16.7%
	答えたくない	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%				
政治への参加	全体	55.7%	31.4%	2.4%	10.5%	60.3%	26.8%	0.8%	12.1%
	男性	44.0%	41.2%	3.8%	11.1%	52.9%	36.9%	0.6%	9.6%
	女性	66.5%	22.6%	1.2%	9.7%	66.2%	19.6%	1.0%	13.3%
	答えたくない	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%				

※ 「男性の方が優遇」は、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

※ 「女性の方が優遇」は、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

問2 次のような考え方についてどう思いますか。【それぞれ1つつ〇】

- 「男性には男性の、女性には女性の感性があるものだ」という考え方についてのみ肯定する回答が過半。
- その考え方を除いては、肯定する回答の割合はどの項目も 2 割前後で、否定する回答の方が多い。

男女に関わるアンコンシャス・バイアスのうち、「男性には男性の、女性には女性の感性があるものだ」という考え方を肯定する人が全体の 60%以上を占める。

一方で、その他の考え方については、肯定する回答の割合は否定する回答に比べると低い。

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、肯定する回答は男性では 30 歳代が、女性では 40 歳代が最も多い。また、前回調査においては、男性の 50 歳代以上の層で肯定する回答が否定する回答を上回ったが、今回は全年齢層において否定する回答が多かった。

【図表 2-1 性別・年代別 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について】

今回						前回				
		やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ ない わ	わ か ら な い ・ 無 回 答			賛 成	反 対	わ か ら な い ・ 無 回 答
全体（N=963）		22.8%	26.9%	45.4%	4.9%	全体（N=859）		33.3%	54.1%	12.7%
男性全体（N=452）		22.8%	31.6%	39.6%	6.0%	男性全体（N=344）		41.3%	47.1%	11.7%
	18歳・19歳（N=7）	28.6%	14.3%	57.1%	0.0%		18歳・19歳（N=）			
	20歳代（N=58）	13.8%	43.1%	41.4%	1.7%		20歳代以下（N=33）	15.2%	66.7%	
	30歳代（N=60）	31.7%	30.0%	33.3%	5.0%		30歳代（N=31）	22.6%	67.8%	9.7%
	40歳代（N=76）	21.1%	36.8%	32.9%	9.2%		40歳代（N=58）	31.0%	56.9%	12.0%
	50歳代（N=83）	19.3%	28.9%	43.4%	8.4%		50歳代（N=56）	48.2%	44.7%	7.2%
	60歳代（N=60）	26.7%	31.7%	35.0%	6.7%		60歳代（N=65）	46.2%	43.1%	10.8%
	70歳代以上（N=108）	24.1%	25.9%	45.4%	4.6%		70歳代以上（N=101）	54.4%	32.7%	12.8%
女性全体（N=505）		23.0%	22.8%	51.1%	3.6%	女性全体（N=491）		28.4%	59.3%	12.5%
	18歳・19歳（N=11）	18.2%	9.1%	72.7%	0.0%		18歳・19歳（N=）			
	20歳代（N=70）	22.9%	34.3%	42.9%	0.0%		20歳代以下（N=38）	15.8%	71.1%	
	30歳代（N=60）	26.7%	16.7%	46.7%	10.0%		30歳代（N=57）	24.6%	68.4%	7.0%
	40歳代（N=76）	28.9%	21.1%	47.4%	2.6%		40歳代（N=92）	28.2%	60.8%	10.9%
	50歳代（N=88）	18.2%	39.8%	37.5%	4.5%		50歳代（N=94）	32.0%	55.3%	12.8%
	60歳代（N=66）	28.8%	7.6%	59.1%	4.5%		60歳代（N=76）	26.3%	67.1%	6.6%
	70歳代以上（N=134）	18.7%	17.9%	61.2%	2.2%		70歳代以上（N=133）	32.4%	48.9%	18.8%
答えたくない（N=6）		16.7%	16.7%	33.3%	33.3%					
	18歳・19歳（N=1）	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%					
	20歳代（N=2）	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%					
	30歳代（N=1）	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%					
	40歳代（N=1）	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%					
	50歳代（N=1）	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
	60歳代（N=0）	—	—	—	—					
70歳代以上（N=0）	—	—	—	—						

※「賛成」は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。

※「反対」は、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計。

【図表 2-4 「男性には男性の、女性には女性の感性があるものだ」という考え方について】

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6	やや そう 思う ・	ど ちら も い え な い	あ ま り そ う 思 わ ない ・	わ か ら な い ・ 無 回 答
全体	61.0%	25.1%	9.9%	4.0%
男性全体	58.4%	26.3%	10.4%	4.9%
女性全体	63.8%	24.2%	9.3%	2.8%
答えたくない	16.7%	16.7%	16.7%	50.0%

【図表 2-5 「男性は論理的、女性は感情的である」という考え方について】

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6	やや そう 思う ・	ど ちら も い え な い	あ ま り そ う 思 わ ない ・	わ か ら な い ・ 無 回 答
全体	23.7%	43.1%	28.1%	5.1%
男性全体	22.1%	45.4%	26.3%	6.2%
女性全体	25.3%	41.2%	29.9%	3.6%
答えたくない	0.0%	33.3%	16.7%	50.0%

問3 あなたは、子どもにどのような能力を身に付けさせたいと思いますか。「男子」、「女子」それぞれの場合について、あてはまる選択肢をお選びください。子どもがいない方は、ご自身のお考えをお答えください。【それぞれ3つまで○】（※ここでいう「子ども」は18歳未満を指します。）

- 男子・女子ともに「礼儀作法」が最も多く、「おもいやり」がこれに次ぐ。
- 男子が女子に比べて多いのは、「リーダーシップ」、「実行力」、女子が男子に比べて多いのは、「家事能力」、「やさしさ」等。

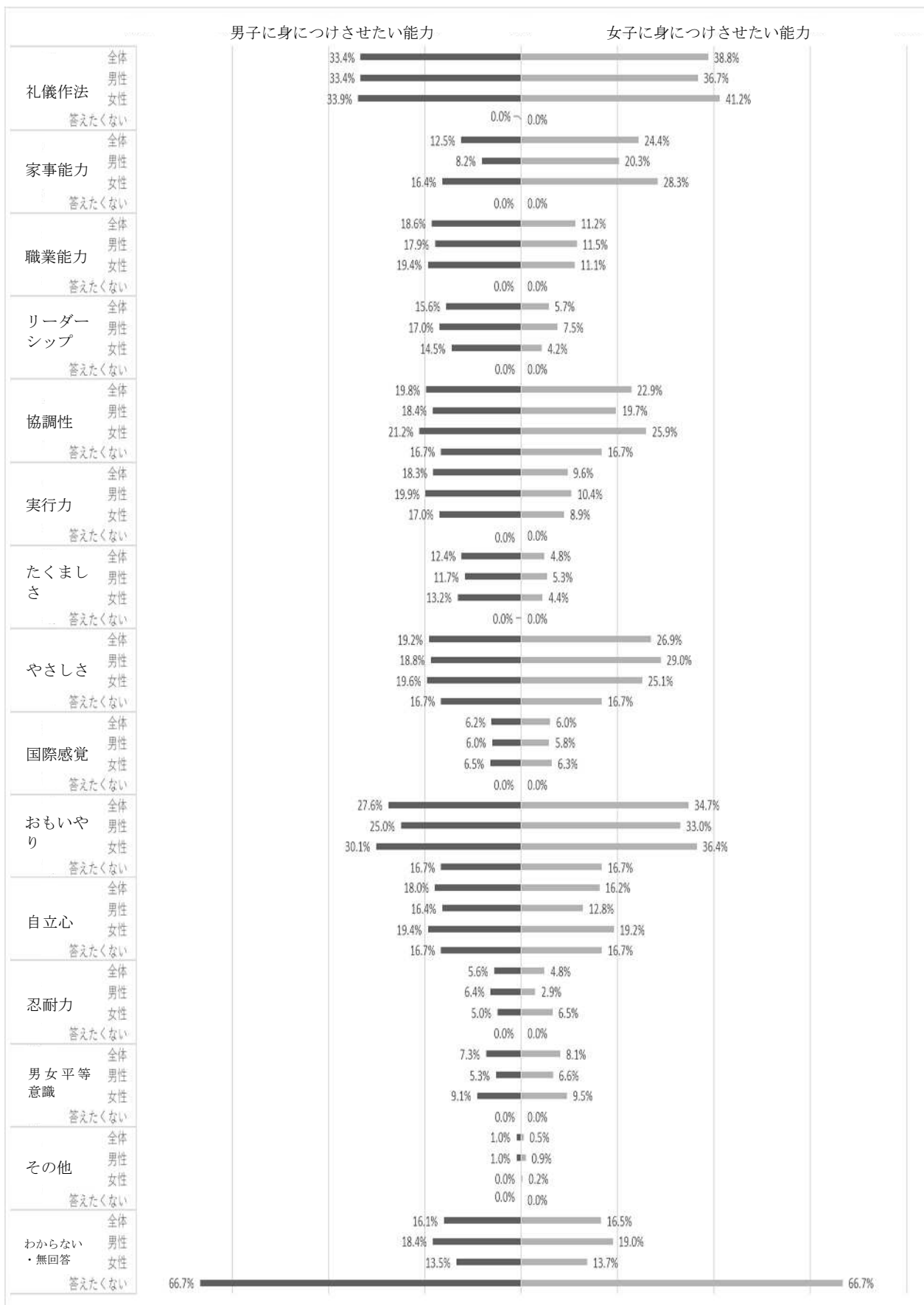
子どもに身につけさせたい能力について、男子では「礼儀作法」が33.4%と最も多く、次いで、「おもいやり」(27.6%)、「協調性」(19.8%)。

女子でも「礼儀作法」が38.8%と最も多く、次いで、「おもいやり」(34.7%)、「やさしさ」(26.9%)。

男子が女子に比べて多いのは、「リーダーシップ」(9.9ポイント差)、「実行力」(8.7ポイント差)、女子が男子に比べて多いのは、「家事能力」(11.9ポイント差)「やさしさ」(7.7ポイント差)等。

回答者の性別による顕著な差異は見られない。

【図表3 子どもに身につけさせたい能力（複数回答）】



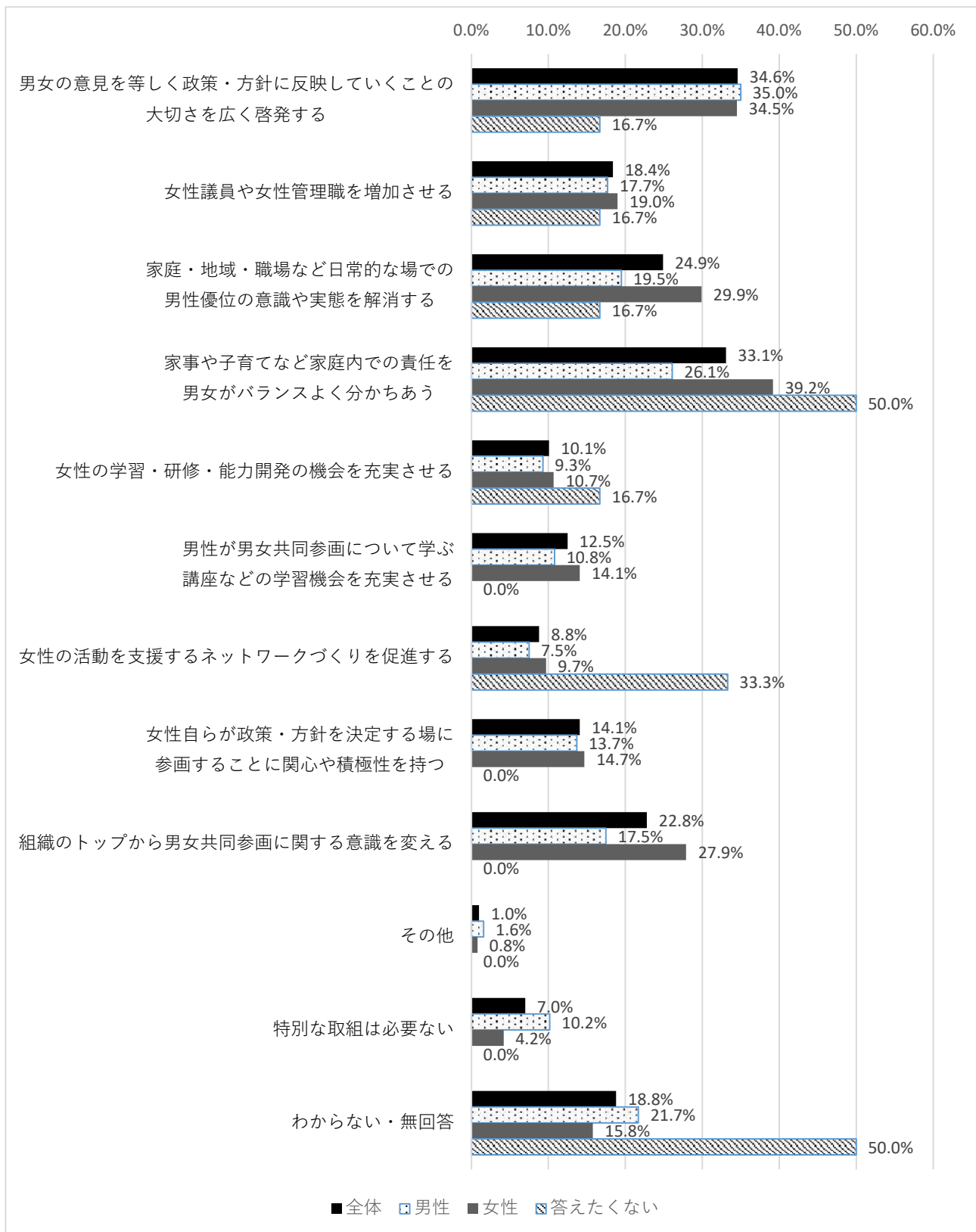
問4 あなたは、政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまで○】

- 「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」が最も多く、次いで、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」、「家庭・地域・職場など日常的な場での男性優位の意識や実態を解消する」となっている。

「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」が34.6%と最も多く、次いで、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」(33.1%)、「家庭・地域・職場など日常的な場での男性優位の意識や実態を解消する」(24.9%)となっている。

前回調査では、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が全体で1位(51.6%)であったが、今回は全体で33.1%と大きく減少(18.5ポイント)している。

【図表 4-1 政策・方針決定における男女平等な参画について（複数回答）】



【図表 4-2 政策・方針決定における男女平等な参画について（複数回答）】

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 〈前回〉 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今回	前回
男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの 大切さを広く啓発する	全体	34.6%	42.4%
	男性	35.0%	45.9%
	女性	34.5%	40.1%
	答えたくない	16.7%	
女性議員や女性管理職を増加させる	全体	18.4%	
	男性	17.7%	
	女性	19.0%	
	答えたくない	16.7%	
審議会などの女性委員の目標比率を設定し、 それを達成する。	全体		11.4%
	男性		12.8%
	女性		10.8%
	答えたくない		
家庭・地域・職場など日常的な場での 男性優位の意識や実態を解消する	全体	24.9%	35.6%
	男性	19.5%	31.7%
	女性	29.9%	38.5%
	答えたくない	16.7%	
家事や子育てなど家庭内での責任を 男女がバランスよく分かちあう	全体	33.1%	51.6%
	男性	26.1%	45.3%
	女性	39.2%	55.2%
	答えたくない	50.0%	
女性の学習・研修・能力開発の機会を充実させる	全体	10.1%	16.3%
	男性	9.3%	16.9%
	女性	10.7%	15.7%
	答えたくない	16.7%	
男性が男女共同参画について学ぶ講座などの 学習機会を充実させる	全体	12.5%	15.5%
	男性	10.8%	20.3%
	女性	14.1%	12.4%
	答えたくない	0.0%	
女性の活動を支援する ネットワークづくりを促進する	全体	8.8%	11.6%
	男性	7.5%	10.2%
	女性	9.7%	12.8%
	答えたくない	33.3%	
女性自らが政策・方針を決定する場に 参画することに関心や積極性を持つ	全体	14.1%	25.5%
	男性	13.7%	25.6%
	女性	14.7%	26.1%
	答えたくない	0.0%	
組織のトップから男女共同参画に 関する意識を変える	全体	22.8%	37.5%
	男性	17.5%	39.5%
	女性	27.9%	37.1%
	答えたくない	0.0%	
その他	全体	1.1%	2.8%
	男性	1.6%	3.8%
	女性	0.8%	2.2%
	答えたくない	0.0%	
特別な取組は必要ない	全体	7.0%	1.7%
	男性	10.2%	1.7%
	女性	4.2%	1.6%
	答えたくない	0.0%	
わからない・無回答	全体	18.8%	5.3%
	男性	21.7%	4.7%
	女性	15.8%	5.5%
	答えたくない	50.0%	

問5 あなたのご家庭では、次の事柄は主にどなたが担当・決定されていますか。

【あてはまるもの全てに○】

① 家事

- ごみ出しを除くいずれの項目においても、女性が担当している傾向が強く、役割分担について男女の意識の乖離がある。

「ごみ出し」を除くいずれの項目においても、男性の約4割が、「配偶者・パートナー」が家事を担当していると回答している一方で、女性ではその割合が2割以下。

特に女性が「配偶者・パートナー」が担当していると回答する率が低いのは「食事の支度（料理）」と「洗濯」で、いずれも1割以下である。

② 家計の管理

- 「住宅の住宅関連費用の支払い」「預貯金などの資産の運用」では性別による大きな差はみられない。

住宅関連費用の支払いについて、男女のいずれでも「自分」が最も多く、前回調査で見られたような男性が主に担当しているという傾向は解消されつつあることが分かる。

預貯金などの資産の運用についても、男性では「自分」が61.9%となっており、女性でも「自分」が67.1%となっている。家計の管理については、性別による大きな違いは見られない。

③ 子どもと介護の必要な高齢者・障害者への対応

- 育児は、女性が担当している傾向が強い。
- 介護については女性が担当している傾向があるものの、育児ほどの差はみられない。

育児に関する項目のいずれにおいても、男性の約4割が、「配偶者・パートナー」が担当していると回答している一方で、女性ではその割合がおおよそ1～2割となっている。

「介護」の項目については、「自分」と回答している割合は女性のほうが男性に比べて高いものの、「配偶者・パートナー」と回答している割合はいずれも1割以下であり、前回調査時に見られた性別による大きな差は見られなかった。

【図表 5 家庭における担当・決定（複数回答）】

(今回) 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 (前回) 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今回						前回					
		自分	パートナー・配偶者	その他の家族	家族以外	該当なし・必要なし	無回答	自分	パートナー・配偶者	その他の家族	家族以外	該当なし・必要なし	無回答
食事の仕度（料理）	全体	63.0%	25.2%	15.0%	1.4%	6.1%	0.3%	60.9%	35.3%	14.9%	0.8%	2.2%	2.6%
	男性	39.2%	45.8%	15.9%	2.0%	8.6%	0.4%	32.3%	64.2%	14.8%	1.2%	3.2%	1.5%
	女性	85.0%	6.9%	13.9%	0.8%	3.4%	0.2%	81.3%	15.3%	14.9%	0.6%	1.6%	2.6%
	答えたくない	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%						
食事のあとかたづけ（食器洗い）	全体	70.6%	25.0%	16.4%	0.9%	6.0%	0.6%	66.7%	35.6%	16.4%	0.6%	2.2%	2.4%
	男性	57.7%	36.9%	17.5%	1.5%	8.8%	0.7%	47.7%	57.0%	18.0%	0.9%	3.5%	1.7%
	女性	82.8%	14.5%	15.2%	0.4%	3.2%	0.6%	80.0%	21.2%	15.5%	0.4%	1.4%	2.4%
	答えたくない	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%						
食料品や日用品の買い物	全体	70.8%	27.4%	16.1%	1.9%	5.3%	0.6%	68.6%	38.1%	15.9%	0.6%	2.4%	2.3%
	男性	56.0%	42.3%	16.2%	2.9%	7.7%	0.2%	51.2%	59.3%	15.4%	0.9%	3.8%	1.7%
	女性	84.8%	14.3%	15.6%	1.0%	2.8%	1.0%	81.5%	23.2%	16.3%	0.4%	1.6%	2.2%
	答えたくない	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%						
そうじ	全体	69.8%	27.9%	15.6%	1.8%	5.4%	0.7%	67.5%	38.0%	14.7%	1.7%	1.7%	2.4%
	男性	54.4%	42.3%	16.4%	1.8%	7.7%	0.9%	49.4%	60.2%	14.8%	2.6%	2.3%	2.0%
	女性	84.2%	15.2%	14.7%	1.8%	3.0%	0.6%	80.7%	22.8%	14.7%	1.2%	1.4%	2.2%
	答えたくない	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%						
洗濯	全体	65.4%	23.2%	17.1%	1.5%	5.6%	0.3%	63.0%	33.1%	15.1%	0.5%	2.0%	2.4%
	男性	43.8%	40.9%	17.9%	2.2%	8.0%	0.2%	36.6%	61.3%	14.8%	0.9%	2.9%	2.0%
	女性	85.3%	7.3%	16.2%	0.8%	3.2%	0.4%	82.1%	13.2%	15.3%	0.2%	1.4%	2.2%
	答えたくない	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%						
ごみ出し	全体	67.7%	24.9%	16.8%	1.3%	5.3%	0.8%	65.2%	35.3%	15.5%	0.2%	2.0%	2.3%
	男性	63.9%	26.8%	17.0%	1.8%	7.5%	0.9%	58.7%	43.0%	14.5%	0.3%	2.9%	1.7%
	女性	71.9%	23.4%	16.2%	1.0%	3.0%	0.8%	69.5%	30.5%	16.3%	0.2%	1.4%	2.2%
	答えたくない	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%						
住居関連費用の支払い （前回は「住宅の購入」）	全体	61.6%	21.8%	16.1%	0.9%	8.5%	0.6%	40.7%	36.1%	9.9%	0.0%	18.9%	7.6%
	男性	65.5%	17.0%	14.8%	1.5%	10.6%	0.6%	54.7%	25.6%	9.0%	0.0%	18.9%	7.0%
	女性	58.6%	26.3%	16.8%	0.4%	6.3%	0.6%	31.2%	44.0%	10.6%	0.0%	18.9%	7.3%
	答えたくない	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%						
預貯金などの資産の運用	全体	64.3%	21.9%	12.7%	1.1%	12.4%	0.8%	61.0%	38.5%	8.6%	0.2%	5.9%	4.2%
	男性	61.9%	23.9%	11.7%	1.5%	13.1%	1.1%	57.3%	45.6%	8.4%	0.3%	5.8%	3.8%
	女性	67.1%	20.2%	13.1%	0.8%	11.5%	0.6%	64.8%	33.8%	8.8%	0.2%	5.9%	3.7%
	答えたくない	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%						

家事

家計の管理

(今回) Nは入力されている数字 (前回) 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今回						前回					
		自分	パートナー・配偶者	その他の家族	家族以外	該当なし・必要なし	無回答	自分	パートナー・配偶者	その他の家族	家族以外	該当なし・必要なし	無回答
育児（乳幼児の世話）	全体 N=447	33.6%	25.7%	0.7%	0.2%	53.5%	1.3%	29.9%	24.9%	4.5%	0.2%	39.3%	16.1%
	男性 N=213	18.8%	43.2%	0.5%	0.5%	54.5%	2.3%	16.3%	40.7%	3.5%	0.6%	38.4%	17.2%
	女性 N=233	47.2%	9.9%	0.9%	0.0%	52.4%	0.4%	40.3%	13.8%	5.5%	0.0%	39.9%	14.7%
	答えたくない N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%						
子どもの日常的なしつけ	全体 N=451	39.0%	29.3%	1.3%	0.4%	49.4%	0.4%	34.3%	27.0%	6.2%	0.1%	36.2%	15.3%
	男性 N=217	25.3%	43.8%	1.4%	0.9%	52.1%	0.5%	23.0%	42.7%	6.1%	0.3%	35.2%	16.6%
	女性 N=233	51.9%	15.9%	1.3%	0.0%	46.8%	0.4%	43.4%	16.1%	6.3%	0.0%	37.1%	13.4%
	答えたくない N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%						
子どもとの遊び	全体 N=451	37.5%	29.5%	2.4%	0.4%	52.8%	0.4%	36.2%	27.5%	7.1%	0.2%	37.3%	15.6%
	男性 N=217	30.0%	36.9%	3.2%	0.5%	54.8%	0.5%	30.5%	35.8%	8.1%	0.3%	36.3%	16.9%
	女性 N=233	44.6%	22.7%	1.7%	0.4%	50.6%	0.4%	41.1%	21.8%	6.7%	0.2%	37.9%	13.8%
	答えたくない N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%						
子どもの教育方針 (進学など)	全体 N=451	40.1%	31.0%	1.6%	0.7%	49.2%	0.4%	35.9%	29.0%	4.5%	0.0%	36.2%	15.1%
	男性 N=217	30.9%	41.0%	1.8%	1.4%	50.7%	0.5%	30.2%	36.9%	4.7%	0.0%	35.8%	16.6%
	女性 N=233	48.9%	21.9%	1.3%	0.0%	47.6%	0.4%	40.7%	23.8%	4.5%	0.0%	36.7%	13.2%
	答えたくない N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%						
家族の介護	全体 N=950	21.1%	7.3%	5.5%	2.0%	70.7%	1.3%	25.5%	17.6%	7.2%	2.4%	47.5%	13.4%
	男性 N=217	15.3%	9.9%	6.1%	2.2%	73.3%	1.5%	18.0%	22.7%	7.0%	3.2%	47.7%	15.1%
	女性 N=233	26.5%	5.0%	5.0%	1.8%	68.1%	1.2%	30.5%	13.8%	7.7%	2.0%	48.1%	11.6%
	答えたくない N=1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%						

問6 あなたは地域での取組のうち以下のものに参加したことがありますか。

【あてはまるもの全てに○】

- およそ半数が「参加したことの取組はない」と回答している。
- 「環境保全の取組」「民生児童委員、市政協力委員、人権擁護委員などの公的な立場での活動」においては、男性の参加の方が多い。

参加したことの取組については、「参加したことの取組はない」(48.4%)が最も多く、次いで「自治会・町内会の活動」(39.6%)、「保育園・学校などの保護者会・PTA」(21.0%)。

多くの項目で女性の参加の割合が男性に比べて高くなっている。

【図表6 参加した地域活動（複数回答）】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
自治会・町内会の活動	39.6%	35.4%	43.4%	33.3%
体育振興会や消防団、 防災・防犯・交通ボランティア	17.8%	15.5%	19.8%	16.7%
保育園・学校などの保護者会・PTA	21.0%	12.2%	29.1%	0.0%
子ども・子育て支援 (子ども食堂、学習支援など)	4.7%	3.8%	5.5%	0.0%
高齢者・障害のある人の支援 (見守り、買い物支援)	4.6%	4.2%	5.0%	0.0%
老人会・女性会	3.8%	2.7%	5.0%	0.0%
地域における趣味・スポーツ・学習の活動	10.3%	9.7%	10.9%	0.0%
環境保全の取組 (清掃、リサイクル、公園整備など)	10.1%	10.8%	9.5%	0.0%
地域活性化の取組 (多世代の居場所づくり、祭り、イベントなど)	13.0%	11.1%	14.9%	0.0%
民生児童委員、市政協力委員、 人権擁護委員などの公的な立場での活動	5.5%	7.3%	4.0%	0.0%
その他	0.5%	0.4%	0.6%	0.0%
参加したことの取組はない	48.4%	52.0%	45.0%	66.7%

問7 あなたが参加した「自治会や町内会の活動」では、次のようなことがありましたか。

【それぞれ1つずつ○】

※ 問6で「自治会・町内会の活動」を選んだ方を対象とする。

- 「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」や「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している」というケースが多い。

自治会や町内会の活動における各事象について、「ある」と回答した割合では、「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」が54.6%と最も多い。次いで、「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している」（45.9%）、「女性は責任のある役を引き受けたがらない」（41.7%）となっており、前回と傾向は同様である。

【図表 7 自治会や町内会の活動状況】

〈今回〉 〈前回〉 全体：N=381 男性：N=160 女性：N=219 答えたくない：N=2 全体：N=472 男性：N=163 女性：N=297		今回				前回			
		ある	ない	わからない・ どちらとも いえない	無回答	ある	ない	わからない・ どちらとも いえない	無回答
行事やイベントの企画は 主に男性が決定している	全体	35.4%	18.1%	46.2%	0.3%	29.4%	28.4%	37.1%	5.1%
	男性	36.9%	15.6%	47.5%	0.0%	29.4%	28.8%	35.6%	6.1%
	女性	34.7%	20.1%	44.7%	0.5%	30.0%	28.3%	38.0%	3.7%
	答えたくない	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%				
代表者は男性から選ばれる	全体	36.7%	26.0%	37.0%	0.3%	34.7%	33.9%	27.1%	4.2%
	男性	35.6%	24.4%	40.0%	0.0%	37.4%	28.8%	29.4%	4.3%
	女性	37.9%	27.5%	34.2%	0.5%	33.3%	36.7%	26.3%	3.7%
	答えたくない	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%				
女性は責任のある役を 引き受けたがらない	全体	41.7%	20.2%	37.5%	0.5%	40.9%	25.2%	27.8%	6.1%
	男性	36.9%	22.5%	40.6%	0.0%	40.5%	20.9%	31.9%	6.7%
	女性	45.7%	18.7%	34.7%	0.9%	41.1%	27.9%	25.6%	5.4%
	答えたくない	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%				
お茶入れや食事の準備などは 女性がしている	全体	54.6%	12.9%	32.5%	0.0%	55.1%	17.8%	22.0%	5.1%
	男性	45.0%	13.8%	41.3%	0.0%	48.5%	22.1%	23.9%	5.5%
	女性	62.1%	12.3%	25.6%	0.0%	59.3%	15.2%	21.2%	4.4%
	答えたくない	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%				
女性は発言しにくい雰囲気がある	全体	13.1%	48.6%	37.8%	0.5%	9.3%	59.5%	24.2%	7.0%
	男性	10.6%	51.9%	36.9%	0.6%	6.7%	54.0%	32.5%	6.7%
	女性	15.1%	46.6%	37.9%	0.5%	10.4%	63.6%	19.5%	6.4%
	答えたくない	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%				
名簿上は男性が会員になっているが 実際は女性（配偶者）が活動している	全体	45.9%	18.4%	35.4%	0.3%	52.1%	19.3%	23.9%	4.7%
	男性	38.1%	21.3%	40.6%	0.0%	42.9%	27.6%	24.5%	4.9%
	女性	52.1%	16.4%	31.1%	0.5%	57.6%	14.5%	24.2%	3.7%
	答えたくない	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%				
男性は仕事で欠席が許されるが、 女性が仕事で欠席することを 否定する雰囲気がある	全体	15.0%	42.5%	42.3%	0.3%	10.6%	48.1%	36.0%	5.3%
	男性	5.0%	50.6%	44.4%	0.0%	8.6%	46.0%	39.9%	5.5%
	女性	22.4%	37.0%	40.2%	0.5%	11.1%	50.2%	34.3%	4.4%
	答えたくない	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%				

問8 あなたは、男女共同参画の視点を取り入れた防災活動・復興のために、何が必要だと思いますか。
【3つまで○】

- 「女性、男性それぞれのニーズに応じた物資の備蓄がされていること」と「男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行うこと」を必要と感じている人が多い。

発災後の男女のニーズに合わせた支援の在り方を求める人が多い。

男女の回答に最も差があったのは「必要なことはない」で、8ポイント差。

【図表8 防災活動・復興に必要なこと（複数回答）】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
発災後に増加が懸念される 性暴力やDVへの対策を強化すること	20.8%	17.7%	23.6%	16.7%
女性、男性それぞれのニーズに応じた物資が 備蓄されていること	42.2%	39.4%	44.6%	50.0%
避難所の運営において男女の意見を 等しく反映させること	34.0%	31.6%	36.0%	33.3%
男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を 行うこと	41.2%	36.7%	45.3%	33.3%
防災・減災に必要な知識や技術をもった 女性を育成すること	13.4%	11.9%	14.9%	0.0%
女性が多く参加する防災訓練を実施すること	7.3%	6.2%	8.3%	0.0%
その他	0.4%	0.2%	0.6%	0.0%
必要なことはない	9.7%	13.9%	5.9%	0.0%
わからない・無回答	25.4%	24.8%	25.7%	50.0%

問9（1）あなたは男女それぞれに特有の健康課題があることを知っていますか。【1つに○】

- 「知っている」「聞いたことがある」を選ぶ人はいずれの性別でも7割以上であった。

男女にそれぞれの特有な健康課題については、「知っている」「聞いたことがある」（計 77.2%）を選ぶ人がいずれの性でも多い。特に女性で「知っている」を選んだ人は半数を超えた。

【図表 9-1 男女の健康課題の認知】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
知っている	48.4%	44.7%	51.9%	33.3%
聞いたことがある	28.8%	28.3%	29.5%	0.0%
知らない	22.6%	26.8%	18.4%	66.7%
無回答	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%

問9（2）あなたは妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、性感染症など、男女が互いの性差に応じた健康について理解し合うためにはどのようなことが必要だと思いますか。【3つまで○】

- 「配偶者やパートナーとの話し合い」が最も多い。

最も多いのが「配偶者やパートナーとの話し合い」（56.7%）であり、次いで「学校における性や性差に応じた健康に係る教育」（38.1%）、職場の理解促進（26.3%）となっている。

【図表 9-2 男女の健康課題の相互理解に必要なこと（複数回答）】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
配偶者やパートナーとの話し合い	56.7%	53.1%	60.2%	33.3%
親子間での話し合い	17.9%	14.4%	21.2%	0.0%
学校における性や性差に応じた健康に係る教育	38.1%	31.0%	44.6%	33.3%
職場の理解促進	26.3%	19.9%	31.9%	33.3%
性や健康についての相談窓口	15.0%	14.6%	15.2%	16.7%
講座の開催などによる学習機会の提供	7.6%	7.3%	7.9%	0.0%
ウェブサイトやパンフレットなどによる情報提供	12.5%	11.1%	13.9%	0.0%
その他	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%
必要なことはない	6.4%	9.3%	4.0%	0.0%
わからない	18.2%	21.7%	14.7%	50.0%

問 10 あなたの現在働いている、または過去に働いていた職場で、賃金や昇進制度といった待遇に男女間の不当な差があると感じたことはありますか

【あてはまるもの全てに○】

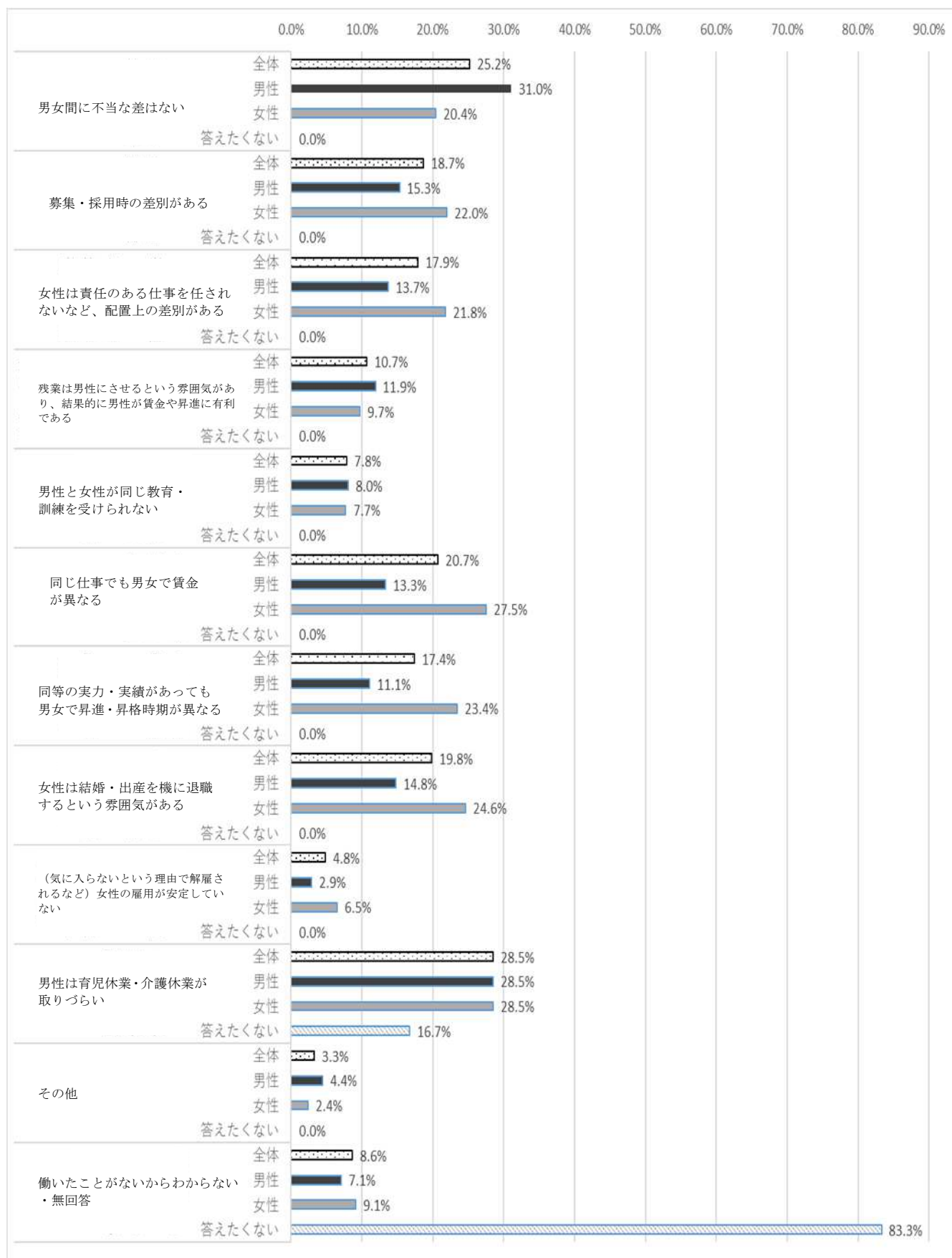
- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」を選んだ人が最も多い。● 不当な差があるとした項目の中では、男女間の認識の差が明らかになったものもある。 |
|---|

賃金や昇進制度といった待遇での男女差については、「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」が28.5%と最も多く、次いで「男女間に不当な差はない」(25.2%)となっている。

不当な差があると回答する項目のうち、男女の回答を比較すると、「同じ仕事でも男女で賃金が異なる」(14.2ポイント差)、「同等の実力・実績があっても男女で昇進・昇格時期が異なる」(12.3ポイント差)、「女性は結婚・出産を機に退職するという雰囲気がある」(9.8ポイント差)を選択した女性の割合は男性に比べ10ポイント近く高く、男女間での認識の差が表れている。

前回と比較すると、「男性の育児休業・介護休業が取りづらい」「募集・採用時の差別がある」を除いた項目において、「男女間の差がある」という回答が割合を増した。

【図表 10-1 賃金や昇進制度といった待遇での男女間の差（複数回答）】



【図表 10-2 賃金や昇進制度といった待遇での男女間の差（複数回答）】

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 〈前回〉 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今回	前回
男女間に不当な差はない	全体	25.2%	38.3%
	男性	31.0%	43.9%
	女性	20.4%	35.4%
	答えたくない	0.0%	
募集・採用時の差別がある	全体	18.7%	20.8%
	男性	15.3%	18.6%
	女性	22.0%	22.0%
	答えたくない	0.0%	
女性は責任のある仕事を任せられないなど、 配置上の差別がある	全体	17.9%	14.8%
	男性	13.7%	14.8%
	女性	21.8%	14.7%
	答えたくない	0.0%	
残業は男性にさせるという雰囲気があり、 結果的に男性が賃金や昇進に有利である	全体	10.7%	7.9%
	男性	11.9%	13.7%
	女性	9.7%	4.3%
	答えたくない	0.0%	
男性と女性が同じ教育・訓練を受けられない	全体	7.8%	4.8%
	男性	8.0%	5.2%
	女性	7.7%	4.7%
	答えたくない	0.0%	
同じ仕事でも男女で賃金が異なる	全体	20.7%	13.2%
	男性	13.3%	14.5%
	女性	27.5%	12.6%
	答えたくない	0.0%	
同等の実力・実績があっても 男女で昇進・昇格時期が異なる	全体	17.4%	15.4%
	男性	11.1%	13.4%
	女性	23.4%	16.7%
	答えたくない	0.0%	
女性は結婚・出産を機に 退職するという雰囲気がある	全体	19.8%	16.1%
	男性	14.8%	18.3%
	女性	24.6%	14.9%
	答えたくない	0.0%	
(気に入らないという理由で解雇されるなど) 女性の雇用が安定していない	全体	4.8%	3.0%
	男性	2.9%	1.2%
	女性	6.5%	4.3%
	答えたくない	0.0%	
男性は育児休業・介護休業が取りづらい	全体	28.5%	34.3%
	男性	28.5%	39.5%
	女性	28.5%	31.4%
	答えたくない	16.7%	
その他	全体	3.3%	6.9%
	男性	4.4%	7.6%
	女性	2.4%	6.3%
	答えたくない	0.0%	
働いたことがないからわからない・無回答	全体	8.6%	15.8%
	男性	7.1%	11.0%
	女性	9.1%	18.5%
	答えたくない	83.3%	

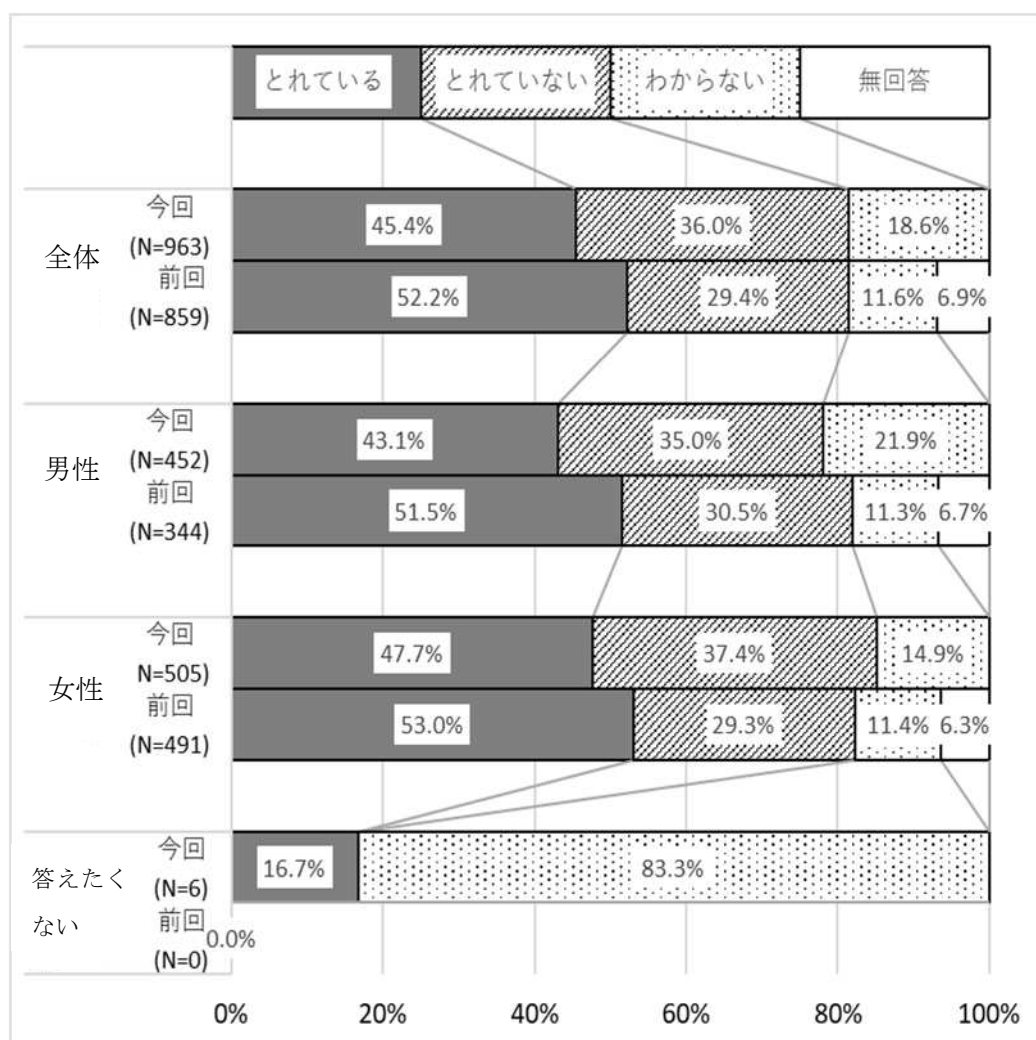
2 「真のワーク・ライフ・バランス」について

問 1 1 現在、あなたご自身の生活では、「仕事」、「家庭生活」、「趣味の活動や地域活動」の3つのバランスが、自分の希望どおりにとれていると思われますか。【1つに○】

- 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現度は低下している。

「真のワーク・ライフ・バランス」について、「実現できている」と回答している人の割合が最も多い傾向は前回と同様であるものの、その割合は低下しており、一方で「実現できていない」とする回答が増加している。

【図表 11 ワーク・ライフ・バランスの状況】



※ 「とれている」は「とれている」と「どちらかというのとれている」の合計

※ 「とれていない」は「とれていない」と「どちらかというのとれていない」の合計

問 1 2 仕事と家庭生活、地域活動などのバランスがとりにくい理由はどのようなことですか。

【あてはまるもの全てに○】

- 男女のいずれでも「時間的理由」と「経済的理由」から真のワーク・ライフ・バランスがとりにくいと感じている人が多い。

男女のいずれにおいても「時間的理由」と「経済的理由」を選択している人が多い。

「それらすべてに参加することに自身が抵抗感を持っている」という理由については、男性に比べて女性を選択した割合が 11.5 ポイント高くなっており、男女間の差が表れている。

【図表 12 ワーク・ライフ・バランスがとりにくい理由（複数回答）】

	それらすべてに自身が抵抗感を持っている	全てに十分な時間をかけられないと感じる	経済的に難しいと思う	それらに参加するため仲間がいない	情報や技能が不足している	その他	わからない・無回答
全体 (N=347)	13.3%	40.3%	33.4%	15.3%	19.0%	2.3%	15.9%
男性全体 (N=158)	7.0%	41.8%	32.9%	14.6%	18.4%	3.8%	14.6%
女性全体 (N=189)	18.5%	39.2%	33.9%	15.9%	19.6%	1.1%	16.9%
答えたくない (N=0)	—	—	—	—	—	—	—

問 13 誰もが、ワーク・ライフ・バランスを実現できる社会をつくるために、どのような取組が必要だと思いますか。【3つまで○】

- 「働き方の見直し」を選んだ人が最も多く、次いで「社員が働きやすい制度の充実」が多くなっている。

「仕事の効率化や、残業削減、有給休暇取得の促進など、働き方の見直し」を選んだ人が28.8%であり、それに続く「育児休暇、介護休暇、短時間勤務制度、フレックス勤務などの、社員が働きやすい制度の充実」（26.7%）と併せて、企業への具体的な配慮を求める割合が高いことが分かる。

男女の回答を比較すると、「育児休暇、介護休暇、短時間勤務制度、フレックス勤務などの、社員が働きやすい制度の充実」、「育児休暇、介護休暇、短時間勤務制度、フレックス勤務などの制度が、社員に積極的に活用されるような環境づくり」、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実」について、女性が選択した割合が男性を上回っており、勤務先や社会に求める家庭生活面のサポートのための制度やサービスの充実を重要と考えていると見受けられる。

【図表 13 ワーク・ライフ・バランスの実現に必要なこと（複数回答）】

<今回> 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6	<前回> 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491	今回				前回		
		全体	男性	女性	答えたくない	全体	男性	女性
「ワーク・ライフ・バランス」の考え方の周知		23.9%	28.5%	20.0%	0.0%	28.1%	32.0%	25.9%
仕事の効率化や、残業削減、有給休暇取得の促進など、働き方の見直し		28.8%	26.8%	30.5%	33.3%	36.2%	42.2%	32.8%
育児休暇、介護休暇、短時間勤務制度、フレックス勤務などの、社員が働きやすい制度の充実		26.7%	23.5%	29.5%	33.3%	24.7%	25.6%	24.6%
育児休暇、介護休暇、短時間勤務制度、フレックス勤務などの制度が、社員に積極的に活用されるような環境づくり		23.1%	16.6%	28.9%	16.7%	37.5%	33.7%	41.1%
組織のトップの意識改革		20.7%	19.5%	22.0%	0.0%			
子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実		12.6%	8.4%	16.2%	16.7%	32.6%	26.7%	37.3%
家事、育児、介護などの分担		13.0%	11.3%	14.7%	0.0%	15.5%	10.8%	19.1%
仕事は夫、家庭は妻、というような固定的な考え方の廃止		15.7%	14.2%	17.2%	0.0%	20.0%	14.8%	23.8%
男性が家事、育児、介護などの技能を高められるような講習会実施や情報提供		4.4%	2.9%	5.7%	0.0%	6.9%	6.4%	6.9%
地域活動やボランティア活動などへの参加のきっかけづくり		2.3%	2.7%	2.0%	0.0%	16.2%	18.3%	15.1%
「ワーク・ライフ・バランス」実践例の共有		6.6%	6.2%	7.1%	0.0%	8.1%	9.6%	7.3%
その他		1.3%	1.5%	1.2%	0.0%	3.8%	5.2%	3.1%
必要なことはない		6.4%	9.5%	3.8%	0.0%			
わからない・無回答		20.6%	22.1%	18.6%	66.7%	12.6%	13.4%	10.2%

問14（1）あなたは以下の行為をハラスメントだと考えますか。【それぞれ1つつ○】

- セクハラについては、自身が性的な扱いを受けることに対してハラスメントであると認識している人が多い。
- マタハラ・パタハラについては、いずれの項目でもおよそ7割の人がハラスメントであると認識している。

「食事やデートにしつこく誘う」、「じろじろと身体を見られる」、「不必要に体を触られる」といった自身が直接的に性的な扱いを受けることについては「そう思う」と回答する人が多い一方で、「身体的な特徴について話題にする」や「『男のくせに』『女のくせに』『男だから』『女だから』と言われる」といった、一見性的と思われない事象については、比較すると「そう思う」と回答する人が比較的少ない。

妊娠・出産、育児に関わる項目については、いずれの項目もおよそ7割の人が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているが、「妊娠や出産・育児について相談できる職場風土がない」についてのみ「どちらともいえない」を選択した人が多く、「ハラスメント」というよりは環境の不備であると認識している人が多いことが分かる。

また、どの項目においても、男性より女性のほうが「そう思う」「ややそう思う」と回答する人が多く、男女間の認識の差が大きい。

【図表 14-1 ハラスメントに対する認知】

(今回) 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6		そう 思 う	や や そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	そ う あ ま り 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
身体的特徴について話題にする (体型、髪型、外見など)	全体	29.9%	30.3%	23.5%	7.8%	3.7%	4.9%
	男性	28.8%	26.8%	26.8%	8.0%	3.8%	6.0%
	女性	31.1%	33.5%	20.6%	7.7%	3.8%	3.4%
	答えたくない	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%
性的なことについて話題にする	全体	38.1%	25.9%	22.7%	6.4%	1.9%	5.0%
	男性	33.6%	24.1%	26.1%	7.7%	2.4%	6.0%
	女性	42.1%	27.7%	20.0%	5.3%	1.2%	3.6%
	答えたくない	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	50.0%
ヌードや水着姿の写真が 人目につくところに貼ってある	全体	37.3%	26.2%	21.8%	7.4%	2.2%	5.2%
	男性	34.3%	25.0%	22.6%	9.5%	2.2%	6.4%
	女性	40.0%	27.5%	21.2%	5.5%	2.2%	3.6%
	答えたくない	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%
食事やデートにしつこく誘う	全体	41.0%	26.9%	20.1%	5.6%	1.6%	4.8%
	男性	38.1%	26.1%	21.7%	5.8%	2.2%	6.2%
	女性	44.0%	27.7%	18.8%	5.5%	1.0%	3.0%
	答えたくない	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%
じろじろと身体を見られる	全体	42.6%	28.7%	18.1%	4.0%	1.9%	4.8%
	男性	33.8%	32.3%	20.4%	4.6%	2.7%	6.2%
	女性	50.5%	25.7%	16.0%	3.6%	1.2%	3.0%
	答えたくない	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%
不必要に体を触られる	全体	59.7%	17.7%	13.4%	3.4%	1.5%	4.4%
	男性	55.3%	18.6%	14.8%	3.5%	2.2%	5.5%
	女性	63.8%	17.0%	12.3%	3.4%	0.8%	2.8%
	答えたくない	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
「男のくせに」「女のくせに」 「男だから」「女だから」と言われる	全体	35.9%	30.4%	21.5%	5.6%	1.5%	5.1%
	男性	32.7%	28.3%	23.5%	7.5%	1.8%	6.2%
	女性	38.8%	32.5%	20.0%	4.0%	1.2%	3.6%
	答えたくない	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
妊娠中や産休・育休明けなどに、 心無い言葉を言われる	全体	46.7%	26.4%	16.3%	3.7%	1.3%	5.5%
	男性	42.3%	27.4%	16.6%	5.1%	1.3%	7.3%
	女性	50.7%	25.7%	16.2%	2.6%	1.4%	3.4%
	答えたくない	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
妊娠中や産休・育休明けなどに、 嫌がらせをされる	全体	53.0%	22.0%	14.1%	4.4%	1.3%	5.2%
	男性	47.8%	22.8%	16.2%	5.3%	1.3%	6.6%
	女性	57.6%	21.6%	12.5%	3.6%	1.4%	3.4%
	答えたくない	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
妊娠や出産・育児を機に雇用形態の変更や 退職を余儀なくされる	全体	49.3%	21.5%	17.2%	4.6%	1.9%	5.5%
	男性	44.2%	22.1%	18.8%	5.1%	2.9%	6.9%
	女性	53.9%	21.2%	16.0%	4.2%	1.0%	3.8%
	答えたくない	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
妊娠や出産・育児を機に給料を減らされる	全体	48.5%	21.2%	17.2%	4.8%	2.3%	6.0%
	男性	43.4%	21.2%	19.9%	5.5%	2.7%	7.3%
	女性	53.1%	21.4%	15.0%	4.2%	2.0%	4.4%
	答えたくない	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
妊娠や出産・育児について相談できる 職場風土がない	全体	32.2%	28.5%	25.6%	5.9%	1.6%	6.2%
	男性	30.5%	27.4%	26.5%	5.8%	2.0%	7.7%
	女性	33.9%	29.5%	25.0%	6.1%	1.2%	4.4%
	答えたくない	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%
「休むなんて迷惑だ」「やめたらどうか？」 等、妊娠・出産・育児に関わる権利を主張しづ らくするような発言をされる	全体	51.2%	22.9%	15.2%	3.9%	1.6%	5.2%
	男性	46.2%	23.7%	17.7%	4.0%	2.0%	6.4%
	女性	55.6%	22.6%	13.1%	4.0%	1.2%	3.6%
	答えたくない	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
育児休業などの育児のための制度利用を 認めてもらえない	全体	48.1%	22.9%	17.5%	4.0%	1.2%	6.1%
	男性	44.0%	22.6%	19.5%	5.1%	1.3%	7.5%
	女性	52.3%	23.2%	15.8%	3.2%	1.2%	4.4%
	答えたくない	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%

問14（2）以下のような行為を受けた時、あなたはどうしましたか。【それぞれ1つずつ○】

- ハラスメントを受けた際の対応についてはいずれの項目でも「何もできなかった（何もしなかった）」が最も多い。
- 全ての項目で男性より女性の被害経験が多い。

ハラスメントに対しては、「何もできなかった（何もしなかった）」を選ぶ人がいずれの項目においても最も多い。

すべての項目において、男性より女性のほうが被害にあっている割合が高かった。

また、選択肢のうち、何らかの行動をしたもの（「抗議し、改善された」、「抗議し、逆に不利益を受けた」、「法的手段に訴えた」）を選んだ人の割合は、相談を行ったもの（「家族に相談した」、「行政などの相談機関に相談した」、「上司に相談した」「組織内部の相談窓口相談した」）を選んだ人の割合に比べて高かった。

【図表 14-2 ハラスメントへの対応】

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6		（何もできなかった）	抗議し、改善された	抗議し、利益を受けた	家族に相談した	行政機関に相談した	上司に相談した	組織内部に相談した	法的手段に訴えた	その他・無回答	受けたことがない
身体的特徴について話題にする （体型、髪型、外見など）	全体	24.5%	3.8%	3.6%	2.5%	0.5%	0.5%	0.4%	0.3%	1.9%	63.4%
	男性	20.4%	4.6%	3.1%	2.7%	0.4%	0.2%	0.4%	0.4%	1.3%	67.5%
	女性	28.5%	3.2%	4.2%	2.4%	0.6%	0.8%	0.4%	0.2%	1.8%	60.0%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
性的なことについて話題にする	全体	22.2%	4.5%	2.2%	1.9%	0.6%	0.2%	0.3%	0.1%	2.4%	66.5%
	男性	18.6%	4.9%	2.0%	1.3%	0.6%	0.2%	0.4%	0.1%	2.0%	69.9%
	女性	25.3%	4.2%	2.4%	2.4%	0.6%	0.2%	0.2%	0.0%	2.2%	63.6%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
ヌードや水着姿の写真が 人目につくところに貼ってある	全体	18.4%	3.2%	2.4%	1.1%	0.2%	0.7%	0.7%	0.0%	2.5%	71.1%
	男性	15.3%	2.7%	3.1%	1.5%	0.2%	0.6%	0.8%	0.0%	2.4%	73.7%
	女性	21.4%	3.8%	1.8%	0.8%	0.2%	0.8%	0.6%	0.0%	2.2%	69.1%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
食事やデートにしつこく誘う	全体	14.6%	4.8%	3.5%	2.8%	0.2%	0.7%	0.4%	0.1%	2.9%	70.8%
	男性	11.9%	2.7%	3.1%	2.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.1%	1.8%	77.4%
	女性	17.2%	6.7%	4.0%	3.2%	0.0%	1.0%	0.4%	0.0%	3.4%	65.1%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
じろじろと身体を見られる	全体	19.5%	2.6%	2.6%	1.3%	1.6%	0.3%	0.3%	0.0%	2.7%	69.7%
	男性	12.4%	2.4%	2.7%	0.7%	2.0%	0.4%	0.4%	0.0%	2.2%	77.2%
	女性	26.1%	2.8%	2.6%	1.8%	1.2%	0.2%	0.2%	0.0%	2.6%	63.2%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
不必要に体を触られる	全体	15.5%	4.7%	3.3%	1.7%	0.6%	1.2%	0.4%	0.0%	2.6%	71.0%
	男性	11.7%	3.1%	2.9%	1.1%	0.7%	1.5%	0.4%	0.0%	1.3%	78.1%
	女性	19.0%	6.1%	3.8%	2.2%	0.6%	1.0%	0.4%	0.0%	3.2%	65.0%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
「男のくせに」「女のくせに」 「男だから」「女だから」と言われる	全体	24.0%	3.6%	3.5%	2.0%	0.7%	0.9%	0.4%	0.2%	2.7%	62.7%
	男性	20.6%	3.1%	3.3%	2.0%	1.1%	0.7%	0.9%	0.4%	1.5%	67.5%
	女性	27.1%	4.2%	3.8%	2.0%	0.4%	1.2%	0.0%	0.0%	3.2%	58.8%
	答えたくない	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%
妊娠中や産休・育休明けなどに、 心無い言葉を言われる	全体	10.5%	3.1%	2.4%	1.2%	0.5%	0.6%	0.2%	0.2%	10.2%	71.5%
	男性	8.0%	2.7%	3.1%	1.5%	0.7%	0.9%	0.2%	0.4%	8.4%	75.2%
	女性	13.1%	3.6%	1.8%	1.0%	0.4%	0.4%	0.2%	0.0%	10.9%	69.1%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
妊娠中や産休・育休明けなどに、 嫌がらせをされる	全体	10.2%	3.1%	2.3%	1.3%	0.4%	0.4%	0.3%	0.1%	10.2%	72.3%
	男性	8.6%	3.3%	1.8%	1.5%	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%	8.8%	75.2%
	女性	11.7%	3.0%	2.8%	1.2%	0.6%	0.4%	0.4%	0.0%	10.3%	70.5%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
妊娠や出産・育児を機に雇用形態の変更や 退職を余儀なくされる	全体	10.2%	2.1%	2.7%	1.8%	0.4%	0.6%	0.4%	0.1%	10.4%	72.5%
	男性	8.4%	2.0%	2.2%	2.0%	0.2%	0.7%	0.7%	0.2%	8.6%	76.1%
	女性	11.9%	2.2%	3.2%	1.6%	0.6%	0.6%	0.2%	0.0%	10.9%	70.1%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
妊娠や出産・育児を機に給料を減らされる	全体	9.4%	2.5%	2.6%	1.7%	0.6%	0.4%	0.5%	0.0%	10.2%	72.9%
	男性	8.0%	1.8%	3.1%	1.8%	0.9%	0.4%	0.9%	0.0%	8.8%	75.9%
	女性	10.9%	3.2%	2.2%	1.6%	0.4%	0.4%	0.2%	0.0%	10.7%	71.1%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
妊娠や出産・育児について相談できる 職場風土がない	全体	10.7%	2.1%	3.4%	1.5%	0.4%	0.2%	0.4%	0.3%	10.6%	70.9%
	男性	9.1%	2.2%	3.5%	1.1%	0.4%	0.0%	0.9%	0.7%	8.4%	74.6%
	女性	12.3%	2.0%	3.4%	1.8%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	11.5%	68.5%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
「休むなんて迷惑だ」「やめたらどうか？」 等、妊娠・出産・育児に関わる権利を主張しづ らくするような発言をされる	全体	10.2%	3.6%	2.5%	1.3%	0.7%	0.7%	0.6%	0.0%	10.1%	71.0%
	男性	8.9%	3.1%	3.1%	1.1%	0.7%	1.3%	0.9%	0.0%	8.8%	73.5%
	女性	11.5%	4.2%	2.0%	1.6%	0.8%	0.2%	0.4%	0.0%	10.1%	69.7%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
育児休業などの育児のための制度利用を 認めてもらえない	全体	10.2%	2.6%	3.1%	1.5%	0.4%	0.5%	0.6%	0.2%	10.6%	70.8%
	男性	9.1%	2.0%	3.5%	1.3%	0.2%	0.7%	0.9%	0.4%	8.4%	73.9%
	女性	11.3%	3.2%	2.8%	1.6%	0.6%	0.4%	0.4%	0.0%	11.5%	68.9%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

問14（3）周囲に以下のような行為を受けている人がいた時、あなたはどうしましたか。

【それぞれ1つつ〇】

- いずれの項目でも、「そのような場面に遭遇したことがない・無回答」の人が最も多い。
- 対応をした場合は、「話題が変わるよう努めた」、「抗議や注意をした」を選ぶ人が多い。

いずれの項目も「そのような場面に遭遇したことがない・無回答」の割合が過半で、「何もできなかった」がこれに次ぐ。

何らかの対応をとった場合は、いずれの項目でも「話題が変わるよう努めた」、「抗議や注意をした」の順に多く、女性においては前者を選ぶ人が多いという傾向があるものの、その場ですぐにできる対応をする人が多く、「日時や場所について記録した」「上司などに助けを求めた」を選ぶ人はほとんどいなかった。

【図表 14-3 他人へのハラスメントの対応】

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6		何も でき な か っ た	抗 議 や 注 意 を し た	努 め た が 変 わ る よ う	声 あ と で か け た 事 者 に	記 録 し た 場 所 に つ い て	助 け を 求 め た	・ 遭 遇 し た こ な め な い
身体的特徴について話題にする (体型、髪型、外見など)	全体	17.7%	8.0%	11.8%	4.6%	0.3%	0.5%	59.4%
	男性	17.9%	7.7%	9.7%	4.6%	0.4%	0.7%	61.1%
	女性	17.6%	8.3%	13.9%	4.6%	0.2%	0.4%	57.4%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性的なことについて話題にする	全体	15.8%	6.7%	11.1%	3.3%	0.2%	0.9%	63.8%
	男性	16.4%	8.0%	8.0%	3.3%	0.4%	1.3%	64.4%
	女性	15.4%	5.7%	14.1%	3.4%	0.0%	0.6%	62.8%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
ヌードや水着姿の写真が 人目につくところに貼ってある	全体	14.3%	5.2%	5.9%	3.1%	1.2%	0.3%	70.7%
	男性	14.8%	5.3%	5.8%	3.1%	1.8%	0.2%	69.7%
	女性	14.1%	5.1%	6.1%	3.2%	0.8%	0.4%	71.3%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
食事やデートにしつこく誘う	全体	11.7%	4.2%	8.5%	3.2%	0.7%	1.2%	71.5%
	男性	12.2%	4.2%	6.0%	2.9%	0.9%	1.6%	73.0%
	女性	11.5%	4.2%	10.9%	3.6%	0.6%	1.0%	69.9%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
じろじろと身体を見られる	全体	14.5%	4.8%	6.2%	3.4%	0.8%	0.8%	70.4%
	男性	12.6%	4.4%	5.1%	3.1%	1.1%	1.1%	72.3%
	女性	16.4%	5.1%	7.3%	3.8%	0.6%	0.6%	66.7%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
不必要に体を触られる	全体	12.4%	7.0%	5.2%	3.7%	1.1%	0.5%	71.0%
	男性	11.3%	6.2%	3.1%	3.1%	1.8%	0.9%	73.7%
	女性	13.5%	7.7%	7.1%	4.4%	0.6%	0.2%	68.3%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
「男のくせに」「女のくせに」 「男だから」「女だから」と言われる	全体	17.5%	6.9%	6.6%	4.7%	0.8%	0.8%	64.3%
	男性	18.1%	6.6%	5.1%	4.6%	1.3%	1.1%	64.8%
	女性	17.2%	7.1%	8.1%	4.8%	0.4%	0.6%	63.4%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
妊娠中や産休・育休明けなどに、 心無い言葉を言われる	全体	10.8%	4.3%	4.7%	2.9%	0.9%	0.6%	76.6%
	男性	10.0%	4.0%	4.2%	2.8%	1.3%	0.7%	77.7%
	女性	11.7%	4.6%	5.1%	3.0%	0.6%	0.6%	75.4%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
妊娠中や産休・育休明けなどに、 嫌がらせをされる	全体	10.6%	3.7%	4.3%	3.1%	1.0%	0.4%	77.6%
	男性	10.0%	4.0%	3.5%	3.3%	1.5%	0.7%	78.1%
	女性	11.3%	3.6%	5.0%	3.0%	0.6%	0.2%	76.8%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
妊娠や出産・育児を機に雇用形態の変更や 退職を余儀なくされる	全体	11.3%	3.5%	4.5%	2.2%	0.9%	0.9%	77.5%
	男性	10.4%	4.9%	3.5%	2.4%	1.1%	1.1%	77.9%
	女性	12.3%	2.4%	5.3%	2.0%	0.8%	0.8%	76.8%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
妊娠や出産・育児を機に給料を減らされる	全体	11.5%	2.7%	4.7%	2.3%	0.9%	0.6%	78.0%
	男性	11.1%	3.3%	3.8%	2.9%	0.9%	0.9%	78.1%
	女性	12.1%	2.2%	5.5%	1.8%	0.8%	0.4%	77.6%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
妊娠や出産・育児について相談できる 職場風土がない	全体	11.9%	3.2%	4.0%	2.9%	0.5%	1.0%	77.2%
	男性	11.3%	4.4%	2.8%	3.1%	0.7%	0.9%	77.9%
	女性	12.7%	2.2%	5.1%	2.8%	0.4%	1.2%	76.2%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
「休むなんて迷惑だ」「やめたらどうか？」 等、妊娠・出産・育児に関わる権利を主張しづ らくするような発言をされる	全体	11.1%	3.6%	3.8%	3.0%	1.3%	0.6%	77.3%
	男性	10.6%	4.4%	2.7%	3.3%	1.8%	0.7%	77.7%
	女性	11.7%	3.0%	5.0%	2.8%	1.0%	0.6%	76.6%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
育児休業などの育児のための制度利用を 認めてもらえない	全体	11.3%	3.2%	4.0%	2.6%	1.0%	1.2%	77.3%
	男性	10.8%	4.2%	3.3%	2.7%	1.3%	1.5%	77.4%
	女性	11.9%	2.4%	4.8%	2.6%	0.8%	1.0%	76.8%
	答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

3 「配偶者からの暴力」について

問15 あなたは、次のようなことが夫婦や交際中のカップルの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。【それぞれ1つずつ○】

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。
- 「暴力にあたるとは思わない」は、「金の使い道を細かくチェックする」が最も多い。

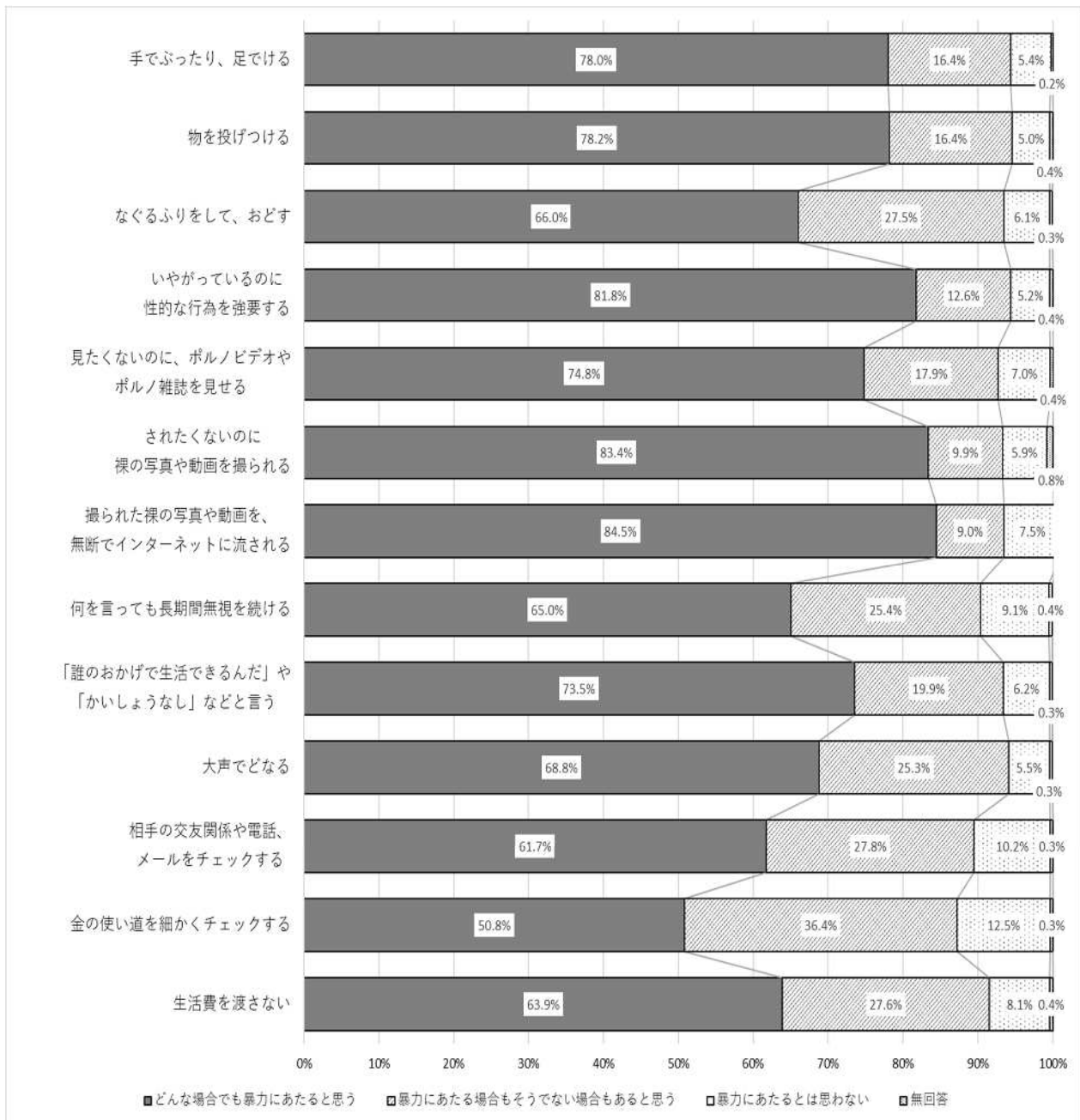
全ての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い。

一方、「暴力にあたるとは思わない」と回答した人が多いのは「金の使い道を細かくチェックする」（経済的暴力）が12.5%、「相手の交友関係や電話、メールをチェックする」（社会的暴力）が10.2%、「生活費を渡さない」（経済的暴力）が8.1%となっている。

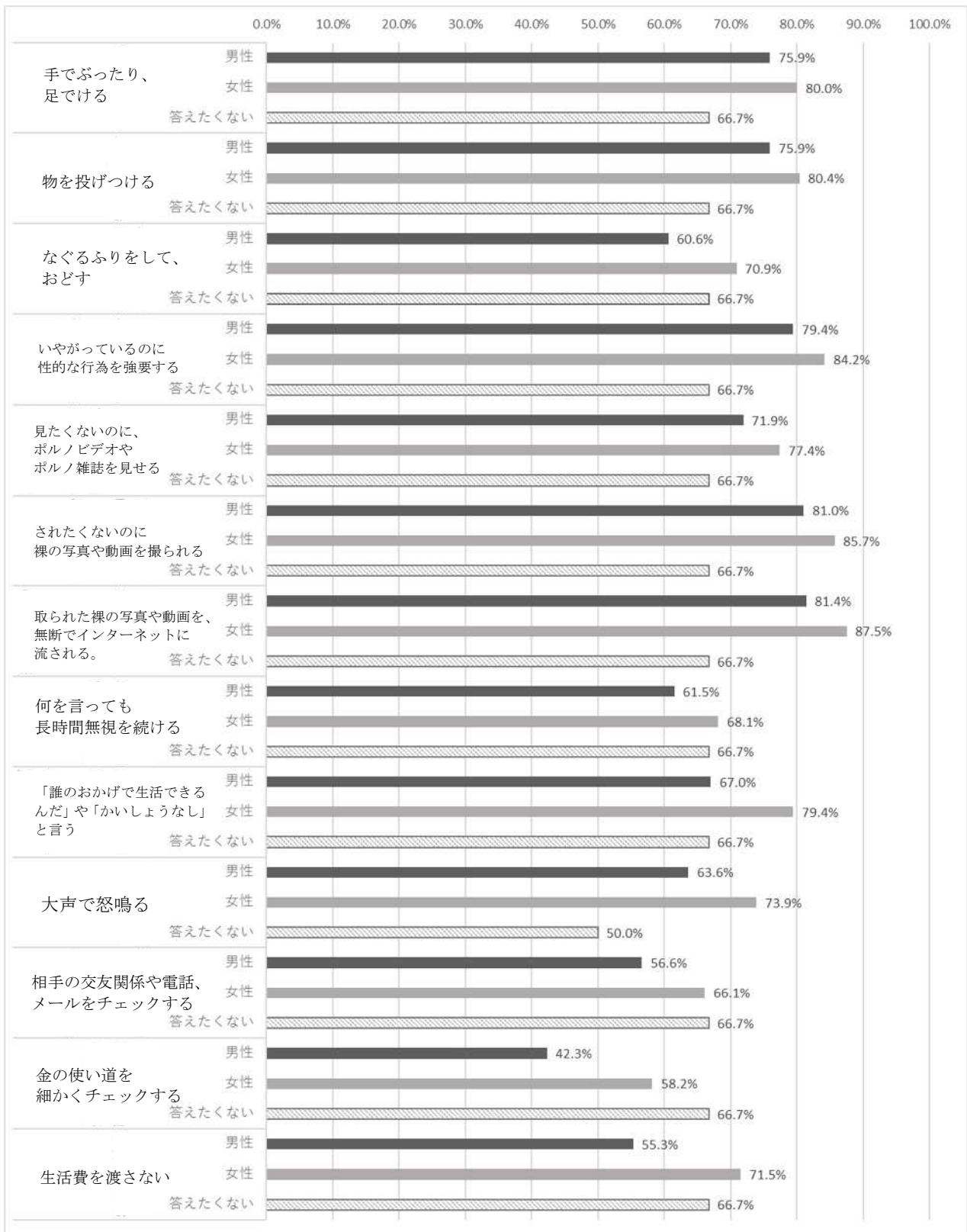
また、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力の種類のうち、性的暴力を「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答する人が多いのに対し、社会的暴力や経済的暴力については「暴力にあたるとは思わない」と回答した人が多い傾向が見られる。

どの項目も男性より女性のほうが「暴力にあたると思う」と回答する人が多く、特に「生活費を渡さない」（16.2ポイント差）、「金の使い道を細かくチェックする」（15.9ポイント差）、『『誰のおかげで生活できるんだ』や『かいしようなし』などと言う』（12.4ポイント差）で認識の差が大きい。

【図表 15-1 どのような行為を暴力と思うか】



【図表 15-2 どのような行為を暴力と思うか
(各項目・男女別「どんな場合も暴力にあたると思う」選択者)】



【図表 15-3 どのような行為を暴力と思うか】

		今回				前回			
		暴力にな あたる 場合 とも 思 う	その う で に 思 な い た 場 合 も	暴力 に あ た る と は	無 回 答	暴力にな あたる 場合 とも 思 う	その う で に 思 な い た 場 合 も	暴力 に あ た る と は	無 回 答
〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 〈前回〉 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491									
手でぶったり足でける	全体	78.0%	16.4%	5.4%	0.2%	75.4%	18.2%	0.8%	5.6%
	男性	75.9%	16.8%	7.1%	0.2%	75.0%	19.5%	0.6%	4.9%
	女性	80.0%	15.8%	4.0%	0.2%	77.4%	17.9%	1.0%	3.7%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
物を投げつける	全体	78.2%	16.4%	5.0%	0.4%	77.9%	15.4%	0.6%	6.2%
	男性	75.9%	17.7%	6.2%	0.2%	79.7%	13.4%	0.9%	6.1%
	女性	80.4%	15.0%	4.0%	0.6%	78.6%	17.1%	0.4%	3.9%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
なぐるふりをして、おどす	全体	66.0%	27.5%	6.1%	0.3%	64.6%	25.1%	3.8%	6.4%
	男性	60.6%	31.4%	7.7%	0.2%	64.8%	24.7%	4.1%	6.4%
	女性	70.9%	24.0%	4.8%	0.4%	65.8%	26.3%	3.9%	4.1%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
嫌がっているのに、 性的な行為を強要する	全体	81.8%	12.6%	5.2%	0.4%	81.3%	11.4%	0.9%	6.4%
	男性	79.4%	13.7%	6.6%	0.2%	80.2%	13.1%	0.6%	6.1%
	女性	84.2%	11.3%	4.0%	0.6%	83.7%	10.6%	1.2%	4.5%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
見たくないのに、 ポルノビデオやポルノ雑誌を 見せられる	全体	74.8%	17.9%	7.0%	0.4%	74.3%	16.2%	2.9%	6.6%
	男性	71.9%	20.6%	7.3%	0.2%	73.8%	18.0%	2.0%	6.1%
	女性	77.4%	15.2%	6.7%	0.6%	76.2%	15.5%	3.7%	4.7%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
されたくないのに 裸の写真や動画を撮られる	全体	83.4%	9.9%	5.9%	0.8%	88.0%	3.7%	1.5%	6.8%
	男性	81.0%	11.1%	7.5%	0.4%	88.1%	4.7%	0.9%	6.4%
	女性	85.7%	8.5%	4.6%	1.2%	90.0%	3.3%	2.0%	4.7%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
撮られた裸の写真や動画を、 無断でインターネットに流される	全体	84.5%	9.0%	6.1%	0.3%	90.8%	1.5%	1.2%	6.5%
	男性	81.4%	10.2%	8.0%	0.4%	91.0%	1.7%	1.5%	5.8%
	女性	87.5%	7.7%	4.6%	0.2%	92.9%	1.4%	1.0%	4.7%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
何を言っても 長時間無視を続ける	全体	65.0%	25.4%	9.1%	0.4%	60.5%	29.7%	3.4%	6.4%
	男性	61.5%	27.7%	10.4%	0.4%	59.9%	30.2%	4.1%	5.8%
	女性	68.1%	23.4%	8.1%	0.4%	63.1%	29.1%	3.1%	4.7%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
「誰のおかげで生活できてるん だ」や「かいしょなし」などと 言う	全体	73.5%	19.9%	6.2%	0.3%	72.9%	18.7%	1.7%	6.6%
	男性	67.0%	24.6%	8.2%	0.2%	66.6%	23.8%	2.9%	6.7%
	女性	79.4%	15.6%	4.6%	0.4%	79.0%	15.5%	1.0%	4.5%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
大声で怒鳴る	全体	68.8%	25.3%	5.5%	0.3%	66.0%	26.0%	1.9%	6.2%
	男性	63.6%	29.2%	7.1%	0.2%	59.3%	32.0%	2.9%	5.8%
	女性	73.9%	21.6%	4.2%	0.4%	72.1%	22.4%	1.2%	4.3%
	答えたくない	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%				
相手の交友関係や電話、メールを チェックする	全体	61.7%	27.8%	10.2%	0.3%	53.0%	34.7%	5.6%	6.8%
	男性	56.6%	31.0%	12.4%	0.0%	52.6%	36.3%	4.9%	6.1%
	女性	66.1%	25.0%	8.3%	0.6%	54.8%	34.0%	6.3%	4.9%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
金の使い道を細かくチェックする	全体	50.8%	36.4%	12.5%	0.3%	37.6%	44.7%	11.2%	6.5%
	男性	42.3%	41.8%	15.7%	0.2%	34.0%	36.3%	14.8%	5.8%
	女性	58.2%	31.7%	9.7%	0.4%	41.1%	34.0%	9.2%	4.7%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
生活費を渡さない	全体	63.9%	27.6%	8.1%	0.4%	70.3%	18.5%	4.8%	6.4%
	男性	55.3%	34.1%	10.2%	0.4%	67.7%	21.2%	5.2%	5.8%
	女性	71.5%	21.8%	6.3%	0.4%	73.7%	17.1%	4.7%	4.5%
	答えたくない	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				

問 16 夫婦や交際中のカップルの間の暴力について、どのように思いますか。

【あてはまるもの全てに○】

- | |
|-------------------------------------|
| ● 「どんな理由があっても暴力はふるうべきではないと思う」が最も多い。 |
|-------------------------------------|

夫婦や交際中のカップルの間の暴力については、「どんな理由があっても暴力はふるうべきではないと思う」が 75.1%と最も高い。

前回調査との比較では「暴力を受けるほうにも問題があるのではないかと思う」を選択した割合が、男性、女性ともに約半減している。

【図表 16 夫婦や交際中のカップルの間の暴力について（複数回答）】

〈今回〉 〈前回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今 回	前 回
どんな理由があっても 暴力をふるうべきではないと思う	全体	75.1%	87.0%
	男性	69.9%	86.0%
	女性	79.8%	89.2%
	答えたくない	66.7%	
暴力を受けるほうにも問題があるのではないと思う	全体	10.3%	21.4%
	男性	11.1%	24.4%
	女性	9.7%	20.4%
	答えたくない	0.0%	
暴力をふるう人は異常な人だと思う	全体	26.8%	32.8%
	男性	24.3%	32.0%
	女性	29.1%	34.0%
	答えたくない	16.7%	
夫婦（交際中のカップル）間のケンカ的一种で、 暴力にはあたらないと思う	全体	4.7%	7.3%
	男性	5.3%	8.1%
	女性	4.2%	6.9%
	答えたくない	0.0%	
暴力は個人的な問題ではなく、 社会的な対策が必要な問題だと思う	全体	19.4%	26.8%
	男性	16.2%	24.1%
	女性	22.4%	29.1%
	答えたくない	16.7%	
暴力をふるう相手とは別れたらいいと思う	全体	45.5%	55.1%
	男性	39.8%	51.7%
	女性	50.3%	58.9%
	答えたくない	66.7%	
その他	全体	1.0%	2.0%
	男性	1.8%	2.0%
	女性	0.4%	2.0%
	答えたくない	0.0%	
無回答	全体	0.1%	4.0%
	男性	0.2%	3.5%
	女性	0.0%	2.6%
	答えたくない	0.0%	

問１７（１）あなたは、配偶者やパートナーから次のようなことをされた経験がありますか。

【あてはまるもの全てに○】

- 被害経験のある人は、男女いずれもおよそ３割となっている。

※ 被害経験のある人： 「配偶者やパートナーがいたことがない」
「以下のようなことを受けたことはない」
「無回答」 以外の人

被害経験のある人は 30.8%（男性 28.8%、女性 32.7%）となっており、男性が 15.6%であった前回調査に比べると男性が急増している。

受けた暴力の内容でみると、『『馬鹿だ』『変だ』『何も知らない』あるいは『父親（母親）失格だ』『家計のやりくりが下手だ』『俺（私）が養ってやっている』などとののしられた』が 8.8%（男性 6.4%、女性 11.1%）、「何を言ってもしても、無視された」が 8.8%（男性 10.4%、女性 7.5%）と高くなっている。

一方で、前回調査時に割合が最も高かった「手をあげられたことがある」、「なぐられたり、けられたりしたことがある」といった身体的暴力の回答割合（前回 17.3%、今回 5.7%）が減少した分、暴力の被害全体の中での精神的暴力の相対的な割合が増加している。

【図表 17-1 被害経験の有無及び暴力の内容（複数回答）】

〈今回〉 〈前回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今 回	前 回
配偶者やパートナーがいたことがない	全体	9.7%	7.2%
	男性	10.4%	10.2%
	女性	8.7%	5.5%
	答えたくない	33.3%	
以下のようなことは 受けたことはない	全体	59.0%	35.9%
	男性	60.6%	41.6%
	女性	57.8%	33.2%
	答えたくない	33.3%	
なぐられたり、けられたりした (今回は「手をあげられたことがある」と「殴られたり、け られたりした」の合計)	全体	5.7%	17.3%
	男性	3.3%	10.2%
	女性	7.9%	22.7%
	答えたくない	0.0%	
物を投げつけられたり、壊されたりした	全体	6.4%	9.0%
	男性	4.6%	6.7%
	女性	8.1%	10.6%
	答えたくない	0.0%	
暴力によってけがをし、医者にかかったことがある	全体	2.7%	2.0%
	男性	2.9%	0.6%
	女性	2.6%	3.1%
	答えたくない	0.0%	
「馬鹿だ」「変だ」「何も知らない」あるいは 「父親（母親）失格だ」「家計のやりくりが下手だ」 「俺（私）が養ってやっている」などとののしられた	全体	8.8%	9.0%
	男性	6.4%	6.4%
	女性	11.1%	10.6%
	答えたくない	0.0%	
何を言ってもしても、無視された	全体	8.8%	5.6%
	男性	10.4%	3.8%
	女性	7.5%	7.1%
	答えたくない	0.0%	

病気の時や妊娠中に冷たくされた	全体	4.8%	4.8%
	男性	2.2%	1.5%
	女性	7.1%	6.9%
	答えたくない	0.0%	
悪くもないのに謝られるなど、したくないことを強制された	全体	5.2%	3.7%
	男性	5.1%	2.9%
	女性	5.3%	4.3%
	答えたくない	0.0%	
実家の親・きょうだい、友人等との付き合いを嫌がられたり、禁止された	全体	5.3%	5.8%
	男性	4.0%	3.2%
	女性	6.5%	7.9%
	答えたくない	0.0%	
外出を制限されたり、電話をチェックされたり、手紙を開封されたりした	全体	3.6%	2.7%
	男性	2.4%	1.7%
	女性	4.8%	3.5%
	答えたくない	0.0%	
金の使い道を細かくチェックされたり、生活費を渡されなかったりした	全体	3.4%	3.1%
	男性	2.7%	0.9%
	女性	4.2%	4.9%
	答えたくない	0.0%	
嫌がっているのに性的行為を強要された (前回は「異性関係を疑われたり、気が進まない伝えて いるのにセックスさせられた」)	全体	4.2%	3.7%
	男性	1.5%	1.2%
	女性	6.5%	5.5%
	答えたくない	0.0%	
避妊に協力してくれなかったり、中絶を強要された	全体	5.3%	2.3%
	男性	4.6%	0.3%
	女性	5.9%	3.7%
	答えたくない	0.0%	
その他	全体	3.1%	0.7%
	男性	3.1%	0.0%
	女性	2.8%	1.2%
	答えたくない	33.3%	
無回答	全体	0.5%	33.2%
	男性	0.2%	32.6%
	女性	0.8%	31.6%
	答えたくない	0.0%	

問 17 (2) それはあなたのお子さんの目の前で行われましたか。または、あなたがそのような被害にあっていることを、あなたのお子さんは知っています（いました）か。

【1つずつ○】

※ 問 17 (1) で3「手でなぐったり、けったりした」～15「その他」を選択したうえで、スクリーニング調査で子どもがいると回答した方を対象とする。

- 被害経験のある人のうち、4人に1人が被害を子どもに知られている。

被害経験のある人のうち、子どもがいる人だけをみると、「はい」が25.9%、「いいえ」が52.5%。

「はい」を選んだ人の割合は前回調査に比べて16ポイント減少しているほか、女性は「はい」を選ぶ人が男性に比べて高い傾向があった。（男性14.5%、女性35.2%）

【図表 17-2 子どもによる認知の有無（子どもがいる人）】

	今回				前回		
	全体 (N=158)	男性 (N=69)	女性 (N=88)	答えたくない (N=1)	全体 (N=160)	男性 (N=44)	女性 (N=112)
はい	25.9%	14.5%	35.2%	0.0%	41.9%	40.9%	42.0%
いいえ	52.5%	62.3%	45.5%	0.0%	45.6%	45.4%	46.4%
わからない	21.5%	23.2%	19.3%	100.0%	10.0%	11.4%	8.9%
無回答					2.5%	2.3%	2.7%

問１７（３）あなたのお子さんの様子に変化はありましたか。【あてはまるもの全てに○】

※ 問１７（２）で１「はい」を選択した方を対象とする。

- 「特に変化はなかった」と「大人の顔をうかがうようになった」が４割で最も高い。

被害経験のある人のうち、子どもがいる人だけを見ると、「特に変化はなかった」と「大人の顔をうかがうようになった」が４１．５％と最も高い。

前回調査との比較では、「言葉を話さなくなった」が前回の８．８％から今回は１７．１％と大きく増加している。

【図表 17-3 子どもの変化（複数回答）】

	今回				前回		
	全体 (N=41)	男性 (N=10)	女性 (N=31)	答えたくない (N=0)	全体 (N=204)	男性 (N=54)	女性 (N=146)
大人の顔をうかがうようになった	41.5%	50.0%	38.7%	—	30.0%	33.3%	29.5%
夜、なかなか寝なくなった	4.9%	10.0%	3.2%	—	2.5%	2.2%	2.7%
言葉を話さなくなった	17.1%	20.0%	16.1%	—	8.8%	6.7%	8.9%
その他	7.3%	0.0%	9.7%	—	5.0%	2.2%	6.3%
特に変化はなかった	41.5%	30.0%	45.2%	—	38.8%	37.8%	38.4%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	—	23.1%	22.2%	24.1%

問 18 配偶者やパートナーから Q17-1 の行為を受けた時、あなたはどのように対応しましたか。

【あてはまるもの全てに○】

※ 問 17 (1) で 3 「なぐったり、けったりした」～15 「その他」を選択した方のみを対象とする。

- 「何もできなかった」が最も多い。

最も多い回答は「何もできなかった」(42.9%)である。

なお、男性は「何もできなかった」(41.1%)に次いで「その他」(17.1%)、「それを原因として相手と別れた」(14.0%)の順に選択した人が多いのに比べて、女性は「何もできなかった」(44.2%)の次に、「それを原因として相手と別れた」(22.4%)、「家族・親戚に相談した」(12.7%)が多くなっている。

また、男性では公的機関への相談が 10.9%であるのに対し、女性は 5.4%である。

【図 18 配偶者等からの暴力への対応（複数回答）】

	今回			
	全体 (N=296)	男性 (N=129)	女性 (N=165)	答えたくない (N=2)
何もできなかった	42.9%	41.1%	44.2%	50.0%
それを原因として相手と別れた	18.6%	14.0%	22.4%	0.0%
親しい知人・友人に相談した	11.8%	11.6%	12.1%	0.0%
家族・親戚に相談した	10.5%	7.8%	12.7%	0.0%
京都市の相談窓口・相談機関に相談した	3.7%	6.2%	1.8%	0.0%
京都市以外の公的機関に相談した	4.1%	4.7%	3.6%	0.0%
警察に相談した	3.0%	3.1%	3.0%	0.0%
民間の専門家や専門機関（京都弁護士会など）に相談した	6.8%	7.0%	6.7%	0.0%
医療機関に相談した	7.8%	8.5%	7.3%	0.0%
その他	13.2%	17.1%	9.7%	50.0%

問１９ あなたは、配偶者やパートナーに次のようなことをした経験がありますか。

【あてはまるもの全てに○】

※ 問１７（１）で２「以下のようなことを受けたことはない」～１５「その他」を選択した方のみを対象とする。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 加害経験のある人は男性で約 25%、女性で約 20%。● 男女いずれも加害内容は「何を言われてもされても、無視した」が最も多い。 |
|---|

加害経験のある人は男性 24.2%、女性 19.1%である。

加害内容については「何を言われてもされても、無視した」（7.5%）、「『馬鹿だ』『変だ』『何も知らない』あるいは『父親（母親）失格だ』『家計のやりくりが下手だ』『俺（私）が養ってやっている』などと発言した」（4.6%）の順に高く、被害経験と同様の傾向が見られる。

【図表 19 加害経験の有無（複数回答）】

全体：N=870 男性：N=405 女性：N=461 答えたくない：N=4		今 回
以下のようなことは したことはない	全体	77.7%
	男性	75.3%
	女性	79.8%
	答えたくない	75.0%
なぐったり、けったりした	全体	3.9%
	男性	5.4%
	女性	2.6%
	答えたくない	0.0%
物を投げつけたり、壊したりした	全体	4.4%
	男性	4.9%
	女性	3.9%
	答えたくない	0.0%
暴力によってケガをさせ、相手が医者にかかった	全体	1.4%
	男性	2.2%
	女性	0.7%
	答えたくない	0.0%
「馬鹿だ」「変だ」「何も知らない」あるいは 「父親（母親）失格だ」「家計のやりくりが下手だ」 「俺（私）が養ってやっている」などと発言した	全体	4.6%
	男性	6.2%
	女性	3.3%
	答えたくない	0.0%
何を言われてもされても、無視した	全体	7.5%
	男性	7.7%
	女性	7.4%
	答えたくない	0.0%

病気の時や妊娠中に冷たくした	全体	1.1%
	男性	1.7%
	女性	0.7%
	答えたくない	0.0%
無理に謝らせるなど、行動を強要した	全体	1.5%
	男性	1.7%
	女性	1.3%
	答えたくない	0.0%
実家の親・きょうだい、友人等との付き合いを禁止した	全体	1.1%
	男性	1.5%
	女性	0.9%
	答えたくない	0.0%
外出を制限したり、電話をチェックしたり、 手紙を開封したりした	全体	1.0%
	男性	1.0%
	女性	1.1%
	答えたくない	0.0%
金の使い道を細かくチェックしたり、 生活費を渡さなかったりした	全体	1.4%
	男性	1.5%
	女性	1.3%
	答えたくない	0.0%
相手が嫌がっているのに、性的行為を強要した	全体	0.8%
	男性	1.2%
	女性	0.4%
	答えたくない	0.0%
避妊に協力しなかったり、中絶を強要した	全体	2.3%
	男性	3.0%
	女性	1.7%
	答えたくない	0.0%
その他	全体	2.1%
	男性	1.7%
	女性	2.2%
	答えたくない	25.0%
無回答	全体	0.8%
	男性	0.5%
	女性	1.1%
	答えたくない	0.0%

問20 配偶者やパートナーに対しQ19の行為をした時あなたはどうしましたか。

【あてはまるもの全てに○】

※ 問19で3「なぐったり、けったりした」～14「その他」を選択した方のみを対象とする。

- 「何もしなかった・何も思わなかった」が最も多い。
- 事後の行動については男女間で差が見られる。

全体でみると「何もしなかった・何も思わなかった」が多く、特に女性では3割以上がそのように回答している。

一方、男性は「後悔した」(27.6%)、「相手と話し合った」(25.5%)、「相手に謝罪した」(24.5%)と、女性に比較して事後の行動があるとする回答が多く見られる。

【図表20 加害後の対応（複数回答）】

	今回			
	全体 (N=187)	男性 (N=98)	女性 (N=88)	答えたくない (N=1)
何もしなかった・何も思わなかった	26.7%	19.4%	35.2%	0.0%
後悔した	21.9%	27.6%	15.9%	0.0%
相手に謝罪した	18.2%	24.5%	11.4%	0.0%
相手のせいにした	10.2%	11.2%	9.1%	0.0%
相手と話し合った	20.3%	25.5%	14.8%	0.0%
親しい知人や友人に相談した	8.6%	7.1%	10.2%	0.0%
家族・親戚などに相談した	10.2%	9.2%	11.4%	0.0%
公的機関に相談した	5.3%	6.1%	4.5%	0.0%
医療機関に相談した	4.3%	5.1%	3.4%	0.0%
民間の相談機関に相談した	9.6%	10.2%	9.1%	0.0%
その他	7.5%	6.1%	8.0%	100.0%

問 2 1 あなたは次のこと（「面前DV」という言葉、意味、子どもの前での暴力（夫婦げんか）等が児童虐待に当たること）を知っていますか。【それぞれ1つずつに○】

① 「面前DV」という言葉

- 「知っている」は20%弱、「知らない」は約80%

② 「面前DV」の意味

- 「知っている」は約15%、「知らない」は約80%

③ 子どもの前での暴力（夫婦げんか）等が児童虐待に当たること

- 「知らない」(56.1%)が「知っている」(43.7%)を上回っている。
- 男性よりも女性の方で認知度が高く、年齢・性別によるばらつきが大きい。

「面前DV」という言葉について、「知っている」は17.5%、「知らない」は82.2%、「面前DV」という意味について、「知っている」は16.6%、「知らない」は83.0%となっている。「面前DV」の言葉と意味について、男女のいずれでも70歳代以上と、30歳代から50歳代までの子育て世代で認知度が高い。

子どもの前での暴力（夫婦げんか）等が児童虐待に当たることについて、「知っている」は43.7%（男性36.9%、女性50.1%）、「知らない」は56.1%（男性63.1%、女性49.5%）であり、年齢・性別によって認知度に大きなばらつきがみられる。

【図表 21 性別・年代別 面前ＤＶ】

Nの数字は左が今回、 右が前回		今回								
		(1)「面前ＤＶ」という言葉			(2)「面前ＤＶ」の意味			(3) 子どもの前での暴力 (夫婦げんか) 等が児童虐待に 当たること		
		知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全体 (N=963) (N=859)		17.5%	82.2%	0.2%	16.6%	83.0%	0.4%	43.7%	56.1%	0.2%
	18歳・19歳 (N=19) (N=0)	15.8%	84.2%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	47.4%	52.6%	0.0%
	20歳代 (N=130) (N=72)	11.5%	88.5%	0.0%	12.3%	86.9%	0.8%	41.5%	58.5%	0.0%
	30歳代 (N=121) (N=89)	23.1%	76.9%	0.0%	21.5%	78.5%	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%
	40歳代 (N=153) (N=151)	18.3%	81.7%	0.0%	18.3%	80.4%	1.3%	43.1%	56.2%	0.7%
	50歳代 (N=172) (N=152)	16.3%	82.6%	1.2%	15.7%	83.7%	0.6%	40.7%	59.3%	0.0%
	60歳代 (N=126) (N=146)	12.7%	87.3%	0.0%	11.1%	88.9%	0.0%	35.7%	64.3%	0.0%
	70歳代以上 (N=242) (N=237)	21.1%	78.9%	0.0%	20.2%	79.8%	0.0%	50.4%	49.2%	0.4%
男性全体 (N=452) (N=344)		16.2%	83.6%	0.2%	14.4%	85.4%	0.2%	36.9%	63.1%	0.0%
	18歳・19歳 (N=7) (N=0)	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%
	20歳代 (N=58) (N=33)	10.3%	89.7%	0.0%	10.3%	89.7%	0.0%	36.2%	63.8%	0.0%
	30歳代 (N=60) (N=31)	18.3%	81.7%	0.0%	15.0%	85.0%	0.0%	41.7%	58.3%	0.0%
	40歳代 (N=76) (N=58)	13.2%	86.8%	0.0%	11.8%	86.8%	1.3%	36.8%	63.2%	0.0%
	50歳代 (N=83) (N=56)	18.1%	80.7%	1.2%	18.1%	81.9%	0.0%	37.0%	62.7%	0.0%
	60歳代 (N=60) (N=65)	13.3%	86.7%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	26.7%	73.3%	0.0%
	70歳代以上 (N=108) (N=237)	20.4%	79.6%	0.0%	18.5%	81.5%	0.0%	40.7%	59.3%	0.0%
女性全体 (N=505) (N=491)		19.0%	80.8%	0.0%	18.8%	80.6%	0.6%	50.1%	49.5%	0.4%
	18歳・19歳 (N=11) (N=0)	18.2%	81.8%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	63.6%	36.4%	0.0%
	20歳代 (N=70) (N=38)	12.9%	87.1%	0.0%	14.3%	84.3%	1.4%	45.7%	54.3%	0.0%
	30歳代 (N=60) (N=57)	28.3%	71.7%	0.0%	28.3%	71.7%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	40歳代 (N=76) (N=92)	23.7%	76.3%	0.0%	25.0%	73.7%	1.3%	50.0%	48.7%	1.3%
	50歳代 (N=88) (N=94)	14.8%	84.1%	1.1%	13.6%	85.2%	1.1%	44.3%	55.7%	0.0%
	60歳代 (N=66) (N=76)	12.1%	87.8%	0.0%	12.1%	87.8%	0.0%	43.9%	56.1%	0.0%
	70歳代以上 (N=134) (N=133)	21.6%	78.4%	0.0%	21.6%	78.4%	0.0%	58.2%	41.0%	0.7%
答えたくない全体 (N=6) (N=0)		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	16.6%	83.3%	0.0%
	18歳・19歳 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代以下 (N=2)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	30歳代 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	40歳代 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	50歳代 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	60歳代 (N=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳代以上 (N=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

前回								
(1)「面前DV」という言葉			(2)「面前DV」の意味			(3)子どもの前での暴力 (夫婦げんか)等が児童虐待に 当たること		
知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
19.3%	72.5%	8.1%	18.2%	72.9%	9.0%	43.9%	47.5%	8.6%
12.5%	84.7%	2.8%	9.7%	87.5%	2.8%	58.3%	38.9%	2.8%
15.7%	83.1%	1.1%	15.7%	83.1%	1.1%	48.3%	50.6%	1.1%
18.5%	78.8%	2.6%	17.9%	79.5%	2.6%	52.3%	45.0%	2.6%
11.2%	83.6%	5.3%	11.2%	83.6%	5.3%	38.8%	55.9%	5.3%
26.7%	69.2%	4.1%	25.3%	69.9%	4.8%	48.6%	46.6%	4.8%
24.5%	59.1%	16.5%	22.4%	58.6%	19.0%	34.6%	47.7%	17.7%
20.6%	73.0%	6.4%	19.8%	73.0%	7.3%	40.7%	52.3%	7.0%
9.1%	84.8%	6.1%	6.1%	87.9%	6.1%	42.4%	51.5%	6.1%
22.6%	77.4%	0.0%	22.6%	77.4%	0.0%	51.6%	48.4%	0.0%
20.7%	79.3%	0.0%	20.7%	79.3%	0.0%	43.1%	56.9%	0.0%
10.7%	85.7%	3.6%	10.7%	85.7%	3.6%	33.9%	62.5%	3.6%
26.2%	70.8%	3.1%	24.6%	72.3%	3.1%	46.2%	50.8%	3.1%
25.7%	58.4%	15.8%	24.8%	56.4%	18.8%	35.6%	46.5%	17.8%
18.7%	74.1%	7.1%	17.3%	74.7%	7.9%	47.3%	45.0%	7.7%
15.8%	84.2%	0.0%	13.2%	86.8%	0.0%	71.1%	28.9%	0.0%
12.3%	86.0%	1.8%	12.3%	86.0%	1.8%	47.4%	50.9%	1.8%
17.4%	78.3%	4.3%	16.3%	79.3%	4.3%	57.6%	38.0%	4.3%
11.7%	81.9%	6.4%	11.7%	81.9%	6.4%	42.6%	51.1%	6.4%
26.3%	68.4%	5.3%	25.0%	68.4%	6.6%	51.3%	42.1%	6.6%
24.1%	60.9%	15.0%	21.1%	61.7%	17.3%	33.8%	49.6%	16.5%

問22 配偶者やパートナーからの暴力などについて相談できる窓口や、京都市が行っている配偶者等からの暴力の防止に関する次の施策を知っていますか。【あてはまるもの全てに○】

- 「知っているものはない」が最も多い。
- 知っている相談窓口では、「区役所」が最も多く、次いで、「京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）」、「京都市ドメスティック・バイオレンス（DV）相談支援センター」。

相談窓口・施策について、「知っているものはない」が61.2%で最も多く、前回調査からの知名度の低下がみられる。

知っている相談窓口では、男性が「京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）」（10.4%）、「区役所（市民窓口課、子どもはぐくみ室など）」（9.7%）、「京都市ドメスティック・バイオレンス（DV）相談支援センター」（9.5%）、女性は「区役所（市民窓口課、子どもはぐくみ室など）」（20.2%）、「京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）」、「京都市ドメスティック・バイオレンス（DV）相談支援センター」（ともに19.0%）となっている。

知っている施策については「緊急一時避難（民間シェルターなど）」（15.1%）が最も高い。

いずれの相談窓口・施策についても、「知っている」の割合は男性に比べて女性が高くなっている。

【図表 22 DV相談窓口・施策の認知度（複数回答）】

<今回> 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 <前回> 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今 回	前 回
京都市ドメスティック・バイオレンス （DV）相談支援センター	全体	14.4%	21.8%
	男性	9.5%	20.3%
	女性	19.0%	23.6%
	答えたくない	0.0%	
区役所（市民窓口課、子どもはぐくみ室など）	全体	15.2%	25.0%
	男性	9.7%	23.3%
	女性	20.2%	27.1%
	答えたくない	0.0%	
京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）	全体	14.8%	18.5%
	男性	10.4%	20.1%
	女性	19.0%	18.1%
	答えたくない	0.0%	
京都市女性のための相談支援センター「みんと」	全体	4.0%	
	男性	2.2%	
	女性	5.7%	
	答えたくない	0.0%	
京都府家庭支援総合支援センター （京都府配偶者暴力相談支援センター）	全体	6.4%	11.5%
	男性	5.3%	9.9%
	女性	7.5%	13.0%
	答えたくない	0.0%	
京都府警察総合相談室（警察）	全体	9.6%	23.1%
	男性	6.6%	27.0%
	女性	12.3%	21.0%
	答えたくない	0.0%	
女性の人権ホットライン（法務局）	全体	12.5%	16.6%
	男性	8.4%	14.0%
	女性	16.2%	19.3%
	答えたくない	0.0%	
DV相談（内閣府）	全体	3.6%	
	男性	2.9%	
	女性	4.4%	
	答えたくない	0.0%	
民間の専門家や専門機関（京都弁護士会など）	全体	5.6%	14.8%
	男性	4.6%	14.5%
	女性	6.5%	15.5%
	答えたくない	0.0%	
その他の施設	全体	0.3%	0.9%
	男性	0.4%	0.9%
	女性	0.2%	1.0%
	答えたくない	0.0%	
知っているものはない	全体	61.2%	36.7%
	男性	68.6%	39.8%
	女性	54.1%	34.6%
	答えたくない	100.0%	
無回答	全体	0.0%	7.8%
	男性	0.0%	7.6%
	女性	0.0%	6.3%
	答えたくない	0.0%	

〈今回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6		〈前回〉 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今 回	前 回
DV専門相談やカウンセリングの実施 (京都市DV相談支援センター)	全体			7.8%	16.8%
	男性			6.6%	15.7%
	女性			8.9%	18.1%
	答えたくない			0.0%	
住民基本台帳の閲覧等の制限	全体			10.0%	18.3%
	男性			7.5%	18.3%
	女性			12.3%	18.5%
	答えたくない			0.0%	
相談証明書の発行（提出先：年金事務所等）	全体			2.7%	2.8%
	男性			2.0%	2.9%
	女性			3.4%	2.9%
	答えたくない			0.0%	
住宅の設定 (母子生活支援施設への入所支援や 市営住宅の優先入居の実施など)	全体			7.2%	14.8%
	男性			4.2%	11.3%
	女性			9.9%	17.7%
	答えたくない			0.0%	
緊急一時避難（民間シェルター）	全体			15.1%	30.8%
	男性			9.7%	23.5%
	女性			20.0%	36.9%
	答えたくない			0.0%	
講演や講座の実施 (DV防止に関するシンポジウムや 自立支援講座の実施など)	全体			3.7%	7.2%
	男性			3.5%	7.3%
	女性			4.0%	7.5%
	答えたくない			0.0%	
啓発 (DV相談啓発リーフレットの配布や 地下鉄車内ポスター広告など)	全体			5.2%	14.8%
	男性			4.2%	15.7%
	女性			6.1%	14.7%
	答えたくない			0.0%	
女性に対する暴力をなくす運動期間 (11月12日から11月25日)における啓発 (京都タワーの紫色ライトアップや 区役所のパネル展示など)	全体			4.4%	7.1%
	男性			3.8%	6.7%
	女性			5.0%	7.5%
	答えたくない				
その他の施策	全体			0.2%	0.6%
	男性			0.2%	0.3%
	女性			0.2%	0.8%
	答えたくない			0.0%	
(施策について) 知っているものはない	全体				39.6%
	男性				43.9%
	女性				36.9%
	答えたくない				
(施策について) 無回答	全体				12.5%
	男性				12.8%
	女性				10.8%
	答えたくない				

4 困難な状況に対するサポートについて

問23 あなたがこれまでに抱えたことのある悩みはありますか。【あてはまるもの全てに○】

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 男性の20%、女性のおよそ30%が何らかの悩みを抱えたことがある。● 男性では「自身の障害や疾病」が最も高く、女性では「離婚問題・家庭不和」が最も高い。 |
|---|

多くの項目で男性よりも女性のほうが悩みを抱えたことがあると回答する割合が高い。

また、「離婚問題・家庭不和」について女性の割合（8.5%）が男性（3.8%）の2倍以上に上り、これらの問題に対する男女間の状況の差をうかがわせる。

【図表 23 抱えたことのある悩みについて（複数回答）】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
デートDV（恋人間の暴力。勝手にスマホのデータを消去する、交友関係を制限する、別れたら死ぬという、避妊に協力しないなど）	4.3%	4.6%	4.0%	0.0%
配偶者以外の家族、同居人からの暴力 （身体的、心理的、性的、経済的暴力を含む）	4.8%	4.0%	5.5%	0.0%
家族以外の他人からの性暴力・性犯罪被害 （痴漢、盗撮、同意のない性交など、直接的な被害）	3.3%	2.0%	4.6%	0.0%
家族以外の他人からの性暴力・性犯罪被害 （SNSを介して性的な画像を送信させられたなど）	1.5%	2.0%	1.0%	0.0%
望まない妊娠（望まない妊娠をしたかもしれない不安などを含む）	1.7%	1.5%	1.8%	0.0%
ストーカー被害	2.5%	1.1%	3.8%	0.0%
住居問題（住む場所がない、失う可能性があるなど）	2.5%	2.2%	2.8%	0.0%
離婚問題・家庭不和	6.2%	3.8%	8.5%	0.0%
自身のアルコール依存、ギャンブル依存、借金問題	1.6%	2.0%	1.2%	0.0%
家族のアルコール依存、ギャンブル依存、借金問題	3.2%	2.0%	4.4%	0.0%
ホスト等他者からの示唆または強要による売春	0.7%	0.9%	0.6%	0.0%
自身の障害や疾病	6.1%	5.8%	6.3%	16.7%
家族の障害や疾病	5.3%	4.0%	6.5%	0.0%
経済的な困窮 （食品や生理用品など生活に必要なものが買えないことがあるなど）	3.9%	3.5%	4.4%	0.0%
特にない	68.3%	73.0%	64.4%	50.0%
無回答	7.3%	6.2%	7.9%	33.3%
答えたくない	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%

問 2 4 困難な状態から回復するためには、どのようなサポートが必要だと思いますか。

【3つまでに○】

- 「安心できる居場所」と回答した人が最も多い。

上位3つは男女で共通しており、「安心できる居場所」（全体で 49.2%）と回答した割合が最も高く、次いで「経済的な自立」（同 38.2%）、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」（同 30.0%）。

また、その他の項目では、女性は「実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること」（27.9%）が高くっており、男性（18.6%）の約 1.5 倍である。

問 22 において男性のDV相談窓口・施策の認知度が低かったことと併せて考えると、男性にまだまだ支援制度や相談窓口に相談することの重要性が認識されていない傾向がうかがえる。

【図表 24 困難な状態から回復するためのサポートについて（複数回答）】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
必要なことはない	17.5%	20.1%	15.2%	16.7%
安心できる居場所	49.2%	46.0%	52.1%	50.0%
困難な状況に気づいてくれる人の存在	30.0%	27.4%	32.5%	16.7%
経済的な自立	38.2%	35.2%	41.2%	16.7%
いざというときに自分で自由に使える まとまった金額のお金	24.0%	19.5%	27.7%	50.0%
実際に支援制度や相談窓口 に助けを求めること	23.4%	18.6%	27.9%	0.0%
経済的自立に必要なスキルや資格	11.1%	10.2%	11.9%	16.7%
弁護士や医師、カウンセラーなど 専門的な知識を持っている人からのサポート	19.8%	19.9%	20.0%	0.0%
その他	1.3%	1.5%	1.0%	16.7%

問25 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない方に、どのようなサポートがあると良いと思いますか。【3つまでに○】

● 「何でも相談できる人や場所」が最も多い。

「何でも相談できる人や場所」が32.8%で最も多く、これは問24で「安心できる居場所」という回答が多かったのと併せて、「居場所」を求めている人が多いと考えられる。

なお、期間の長短はあれ、「宿泊できる場所」や「生活できる施設」「住まいに関する支援」と答えた割合(85.6%)も高く、逆に「一晩程度過ごせるお金の補助」と回答した人(6.3%)が少ないことから、「場所」における支援が強く求められていることが分かる。

【図表25 家に居場所がない方へのサポートについて（複数回答）】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
就職などの自立に向けた支援	29.7%	27.0%	32.3%	16.7%
一時的に（数日間）宿泊できる場所の提供	29.0%	25.2%	32.5%	16.7%
住まいに関する支援	28.3%	24.6%	32.1%	0.0%
何でも相談できる人や場所	32.8%	31.9%	33.9%	16.7%
同じ悩みを持つ人と出会える場所	11.4%	12.6%	10.5%	0.0%
無料・低額の食事の提供	20.5%	19.9%	21.0%	16.7%
一晩程度過ごせるお金の補助	6.3%	5.8%	6.9%	0.0%
自立に向けて数年間生活できる施設	28.3%	23.9%	32.5%	16.7%
その他	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%
必要なことはない	10.6%	13.9%	7.5%	16.7%
わからない	14.5%	15.3%	13.5%	50.0%

問26 もしあなたが自身の置かれている困難な状況について相談するとしたら、どのような方法が最も好ましいですか。【1つに○】

- 20歳以下ではSNSを希望する割合が多いものの、全体的にはSNSやメール、電話などの間接的に相談する方法に比べると、対面での相談を希望する人のほうが多い。

相談方法については「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」（21.6%）、「支援機関（対面）」（17.0%）、「SNS（LINE、X、Instagram など）」（9.9%）の順に多くなっているが、対面での相談を希望する人は、SNS、メール、電話での相談を希望する人に比べて多くなっている。

男女間のギャップを見ると、男性の「相談したり支援を受けたりしたいと思わない」を選択する割合が70歳代を除くすべての年代で女性を上回っており、特に18歳・19歳の年代（男性14.3%、女性0%）、30歳代（男性13.3%、女性0%）、60歳代（男性13.3%、女性3.0%）でその傾向は顕著である。

なお、18歳・19歳の男女について、母数が少ないため（男性7人、女性11人）あくまで参考となるが、女性の半数以上が「SNS（LINE、X、Instagram など）」（54.5%）と答え、「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」は9.1%にとどまっているのに対し、同年代の男性では「SNS（LINE、X、Instagram など）」は14.3%である一方で、「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」と答えた人はおよそ6割（57.1%）に上るのは特徴的である。

【図表 26 希望する相談方法について】

		気軽に立ち寄れる 場所で相談 (対面)	SNS(LINE、 X、Instagram など)	メール	電話	支援機関 (対面)	自宅に訪問して もらう (対面)	学校 (対面)	相談したり支援 を受けたりした いと思わない	その他	わからない
全体 (N=963)		21.6%	9.9%	6.5%	8.6%	17.0%	2.3%	0.4%	6.9%	0.3%	26.5%
	18歳・19歳 (N=19)	26.3%	36.8%	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	15.8%
	20歳代 (N=130)	15.4%	17.7%	9.2%	5.4%	11.5%	2.3%	1.5%	6.2%	1.5%	29.2%
	30歳代 (N=121)	19.8%	17.4%	5.0%	9.9%	6.6%	1.7%	0.0%	6.6%	0.0%	33.1%
	40歳代 (N=153)	20.3%	13.1%	7.2%	6.5%	15.7%	0.7%	0.7%	7.2%	0.0%	28.8%
	50歳代 (N=172)	22.1%	7.6%	9.3%	7.6%	19.8%	4.1%	0.6%	5.8%	0.0%	23.3%
	60歳代 (N=126)	24.6%	6.3%	9.5%	5.6%	18.3%	1.6%	0.0%	7.9%	0.0%	26.2%
	70歳代以上 (N=242)	24.4%	1.2%	2.5%	13.2%	24.4%	2.9%	0.0%	7.4%	0.4%	23.6%
男性全体 (N=452)		21.9%	9.1%	5.1%	9.3%	14.8%	1.8%	0.7%	9.5%	0.2%	27.7%
	18歳・19歳 (N=7)	57.1%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	20歳代 (N=58)	13.8%	19.0%	5.2%	8.6%	12.1%	1.7%	1.7%	8.6%	1.7%	27.6%
	30歳代 (N=60)	13.3%	20.0%	5.0%	10.0%	5.0%	3.0%	0.0%	13.3%	0.0%	30.0%
	40歳代 (N=76)	26.3%	10.5%	5.3%	7.9%	15.8%	0.0%	1.3%	9.2%	0.0%	23.7%
	50歳代 (N=83)	22.9%	4.8%	7.2%	6.0%	18.1%	4.8%	1.2%	7.2%	0.0%	27.7%
	60歳代 (N=60)	20.0%	6.7%	8.3%	5.0%	13.3%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	33.3%
	70歳代以上 (N=108)	25.9%	0.9%	1.9%	14.8%	20.4%	0.9%	0.0%	7.4%	0.0%	27.8%
女性全体 (N=505)		21.6%	10.7%	7.9%	8.1%	19.2%	2.6%	0.2%	4.6%	0.4%	24.8%
	18歳・19歳 (N=11)	9.1%	54.5%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%
	20歳代 (N=70)	17.1%	17.1%	12.9%	2.9%	11.4%	1.4%	1.4%	4.3%	1.4%	30.0%
	30歳代 (N=60)	26.7%	15.0%	5.0%	10.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	35.0%
	40歳代 (N=76)	14.5%	15.8%	9.2%	5.3%	15.8%	1.3%	0.0%	5.3%	0.0%	32.9%
	50歳代 (N=88)	21.6%	10.2%	11.4%	9.1%	21.6%	3.4%	0.0%	4.5%	0.0%	18.2%
	60歳代 (N=66)	28.8%	6.1%	10.6%	6.1%	22.7%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%	19.7%
	70歳代以上 (N=134)	23.1%	1.5%	3.0%	11.9%	27.6%	4.5%	0.0%	7.5%	0.7%	20.2%
答えたくない全体 (N=6)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%
	18歳・19歳 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	20歳代以下 (N=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	30歳代 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40歳代 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	50歳代 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60歳代 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	70歳代以上 (N=0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

5 京都市の取組について

問27 京都市では男女共同参画を推進していく中核施設として、男女共同参画センター「ウィングス京都」（中京区東洞院六角下る）を運営しています。

あなたはこれまで「ウィングス京都」を利用したことがありますか。【1つに○】

- 「知らない」と回答した人がおよそ6割を占める。
- 知っている人でも利用したことがある人の割合は低い。

いずれの性別でも「知らない」と答えた人が半数以上（男性62.8%、女性55.2%）を占め、全体ではおよそ6割（59.1%）となっている。

「ウィングス京都」を利用したことがあるのは全体10.2%、男性9.7%、女性10.9%であり、「ウィングス京都」の知名度と魅力の双方の向上が求められる。

【図表 27-1 「ウィングス京都」の知名度について】

	全体 (N=963)	男性 (N=452)	女性 (N=505)	答えたくない (N=6)
毎週1回以上利用している	0.8%	1.1%	0.6%	0.0%
月に1～3回程度利用している	0.8%	1.3%	0.4%	0.0%
年に数回利用している	1.1%	1.1%	1.2%	0.0%
今まで何回か利用したことがある	7.5%	6.2%	8.7%	0.0%
知っているが利用したことはない	30.6%	27.4%	33.9%	0.0%
知らない	59.1%	62.8%	55.2%	100.0%

【図表 27-2 年代別「ウィングス京都」の知名度について】

		毎週1回以上 利用している	月に1～3回程度 利用している	年に数回 利用している	今まで何回か 利用したことが ある	知っているが 利用したことは ない	知らない
全体 (N=963)		0.8%	0.8%	1.1%	7.5%	30.6%	59.1%
	18歳・19歳 (N=19)	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	21.1%	68.4%
	20歳代 (N=130)	2.3%	2.3%	6.2%	4.6%	23.8%	60.8%
	30歳代 (N=121)	2.5%	3.3%	0.0%	6.6%	19.8%	67.8%
	40歳代 (N=153)	0.7%	0.7%	0.0%	8.5%	32.7%	57.5%
	50歳代 (N=172)	0.0%	0.0%	0.6%	7.0%	32.0%	60.5%
	60歳代 (N=126)	0.8%	0.0%	0.0%	9.5%	29.4%	60.3%
	70歳代以上 (N=242)	0.0%	0.0%	0.8%	7.9%	38.8%	52.5%
男性全体 (N=452)		1.1%	1.3%	1.1%	6.2%	27.4%	62.8%
	18歳・19歳 (N=7)	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
	20歳代 (N=58)	3.4%	3.4%	6.9%	6.9%	32.8%	46.6%
	30歳代 (N=60)	3.3%	5.0%	0.0%	8.3%	15.0%	68.3%
	40歳代 (N=76)	1.3%	1.3%	0.0%	7.9%	30.3%	59.2%
	50歳代 (N=83)	0.0%	0.0%	1.2%	6.0%	25.3%	67.5%
	60歳代 (N=60)	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	21.7%	75.0%
	70歳代以上 (N=108)	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%	35.2%	60.2%
女性全体 (N=505)		0.6%	0.4%	1.2%	8.7%	33.9%	55.2%
	18歳・19歳 (N=11)	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%
	20歳代 (N=70)	1.4%	1.4%	5.7%	2.9%	17.1%	71.4%
	30歳代 (N=60)	1.7%	1.7%	0.0%	5.0%	25.0%	66.7%
	40歳代 (N=76)	0.0%	0.0%	0.0%	9.2%	35.5%	55.3%
	50歳代 (N=88)	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	38.6%	53.4%
	60歳代 (N=66)	1.5%	0.0%	0.0%	15.2%	36.4%	47.0%
	70歳代以上 (N=134)	0.0%	0.0%	1.5%	10.4%	41.8%	46.3%
答えたくない全体 (N=6)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	18歳・19歳 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	20歳代以下 (N=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	30歳代 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40歳代 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	50歳代 (N=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	60歳代 (N=0)	—	—	—	—	—	—
	70歳代以上 (N=0)	—	—	—	—	—	—

問28 あなたが「ウィングス京都」を利用された際、どのように利用されましたか。

【あてはまるもの全てに○】

- 貸会議室を利用する人が最も多い。
- 男女で利用目的に差がみられる。

最も多いのが「貸会議室の利用」(37.4%)であり、これは男女のいずれでも同様の結果(男性40.9%、女性34.5%)となっている。

一方で、男性で「相談事業の利用」と回答した割合(9.1%)は女性(18.2%)に比べて半分程度であり、これは問26で見られた「困難な状況にあるときに男性は女性に比べて「相談したり支援を受けたりしたいと思わない」と考えている人が多い」という結果と整合する。

【図表28 「ウィングス京都」の利用目的について(複数回答)】

	全体 (N=99)	男性 (N=44)	女性 (N=55)	答えたくない (N=6)
相談事業の利用	14.1%	9.1%	18.2%	0.0%
図書情報室の利用	26.3%	25.0%	27.3%	0.0%
男女共同参画に関するイベントでの利用	24.2%	31.8%	18.2%	0.0%
男女共同参画以外のイベントでの利用	30.3%	29.5%	30.9%	0.0%
貸会議室の利用	37.4%	40.9%	34.5%	0.0%
その他	6.1%	4.5%	7.3%	0.0%

問29 あなたが「ウイングス京都」を利用されない理由は何ですか。

【あてはまるもの全てに○】

- 「利用目的がない」が最も多い。

「利用目的がない」が69.5%、それに次いで「利用する機会がない」が40.3%と回答のほとんどを占める結果となった。

女性では「興味深い講座・セミナーがない」を選んだ人が、女性では4.7%、男性では0.8%と男女で差が出ている。

【図表29 「ウイングス京都」を利用しない理由について（複数回答）】

	全体 (N=295)	男性 (N=124)	女性 (N=171)	答えたくない (N=0)
利用目的がない	69.5%	72.6%	67.3%	0.0%
利用する機会がない	40.3%	40.3%	40.4%	0.0%
興味深い講座・セミナーがない	3.1%	0.8%	4.7%	0.0%
施設が老朽化している	1.0%	1.6%	0.6%	0.0%
施設利用料が高い	2.4%	2.4%	2.3%	0.0%
その他	1.0%	0.0%	1.8%	0.0%

問30 あなたは、「男女共同参画社会」の実現に向けて、京都市は今後どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。

【3つまでに○】

- 求める施策の中では「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメントの防止の対策」が最も多い。
- 次いで「雇用の機会や条件の男女格差を解消するための企業や事業主への働きかけ」、「学校や施設等における男女共同参画の理解を深めるための教育・学習」となっている。

京都市の取り組むべき施策について、「セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメントの防止の対策」が19.5%と最も多く、次いで「雇用の機会や条件の男女格差を解消するための企業や事業主への働きかけ」が19.3%、「学校や施設等における男女共同参画の理解を深めるための教育・学習」が18.8%と続いている。

男性では、「特にない」が20.4%と女性（10.1%）の2倍近くに上るのが特徴的である。

【図表 30 京都市の取り組むべき施策（複数回答）】

〈今回〉 〈前回〉 全体：N=963 男性：N=452 女性：N=505 答えたくない：N=6 全体：N=859 男性：N=344 女性：N=491		今 回	前 回
生涯を通じた男女の性差に応じた健康対策	全体	16.4%	14.0%
	男性	18.6%	15.1%
	女性	14.5%	13.2%
	答えたくない	16.7%	
学校や施設等における男女共同参画の理解を深めるための 教育・学習	全体	18.8%	35.3%
	男性	18.4%	39.8%
	女性	19.0%	32.8%
	答えたくない	33.3%	
配偶者等からの暴力防止の対策	全体	7.8%	14.0%
	男性	8.2%	16.0%
	女性	7.5%	12.8%
	答えたくない	0.0%	
セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、 パタニティ・ハラスメント防止の対策	全体	19.5%	19.7%
	男性	17.1%	20.9%
	女性	22.0%	19.1%
	答えたくない	0.0%	
雇用の機会や条件の男女格差を解消するための 企業や事業主への働きかけ	全体	19.3%	29.7%
	男性	16.0%	31.1%
	女性	22.6%	29.5%
	答えたくない	0.0%	
行政職員や審議会委員など政策決定の場における 女性の積極的な登用	全体	8.3%	14.8%
	男性	6.7%	16.0%
	女性	9.9%	14.7%
	答えたくない	0.0%	
女性の役員や管理職が増えるような民間企業や団体などへの 働きかけ	全体	7.0%	7.8%
	男性	5.8%	8.1%
	女性	8.1%	7.5%
	答えたくない	0.0%	
女性の意識や能力を高める学習・研修	全体	5.1%	7.6%
	男性	3.8%	6.7%
	女性	6.3%	8.1%
	答えたくない	0.0%	
L G B T 等の性的少数者など、様々な性の理解を深める取組	全体	6.2%	14.2%
	男性	6.4%	14.2%
	女性	5.9%	14.5%
	答えたくない	16.7%	

男女共同参画を推進するNPO（民間非営利団体）や 市民グループなどとの連携	全体	4.4%	5.2%
	男性	3.8%	6.4%
	女性	5.0%	4.3%
	答えたくない	0.0%	
男女共同参画に関する相談窓口の充実	全体	8.5%	6.8%
	男性	8.6%	9.0%
	女性	8.5%	5.3%
	答えたくない	0.0%	
地域や防災分野での女性リーダーの養成	全体	2.5%	3.0%
	男性	2.2%	3.5%
	女性	2.8%	2.6%
	答えたくない	0.0%	
男女共同参画の視点に立った地域防災の取組	全体	3.3%	5.0%
	男性	3.5%	6.4%
	女性	3.2%	4.1%
	答えたくない	0.0%	
子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスの充実	全体	14.5%	38.0%
	男性	10.6%	30.5%
	女性	18.2%	43.4%
	答えたくない	0.0%	
男性が家事、育児、介護などの技能を高められるような 講習会の実施や情報提供	全体	5.9%	11.8%
	男性	4.9%	11.0%
	女性	6.9%	12.4%
	答えたくない	0.0%	
その他	全体	0.6%	1.5%
	男性	0.7%	2.0%
	女性	0.6%	1.2%
	答えたくない	0.0%	
特になし	全体	15.0%	4.2%
	男性	20.4%	4.9%
	女性	10.1%	3.9%
	答えたくない	16.7%	
わからない	全体	24.5%	8.0%
	男性	23.5%	7.3%
	女性	25.1%	8.6%
	答えたくない	50.0%	
無回答	全体	0.1%	3.8%
	男性	0.2%	2.6%
	女性	0.0%	2.6%
	答えたくない	0.0%	

6 自由記載意見

※ 回答者から寄せられた意見・要望について、「男女共同参画社会」、「配偶者・パートナーからの暴力」及び「困難な状況に対するサポート」、「その他」に関するものを抜粋又は要約したものを掲載しています。

① 「男女平等」や「男女共同参画」に関するもの	
■ こどものころからきちんとした教育をすること。女性が経済的に自立するためにも必要と思う。	〈女性、40 歳代〉
■ 守られるべき方々のことを考えすぎて、過保護に守るようなことは逆差別につながると思う。いつか「意識して差別しないようにする」から「無意識に差別しない」社会になればいいなと思います。	〈女性、50 歳代〉
■ 形式上の格式ばった委員会とか政策を作るだけでなく、実際に地域の中にそういう目的の人を養成することが大事だと思う。	〈女性、60 歳代〉
■ 女性の要求することをそのまますべて実現してほしい。	〈男性、30 歳代〉
■ 寛容になる事	〈男性、70 歳代以上〉
■ 男女などは関係なく、弱い者の味方であってほしいです。	〈女性、40 歳代〉
■ 男性でも休暇が取りやすい環境	〈女性、40 歳代〉
■ 男性の意識改革。	〈女性、40 歳代〉
■ 男女共同参画を考えすぎるとかえって差別を増長させてしまう。	〈男性、50 歳代〉
■ 男女関係なく、能力のある人間がそれぞれの仕事を担当すればいい。男はここ、おんなはここという決めつけこそがいろんな元凶だと思う。	〈男性、50 歳代〉
■ セミナーの開催。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男女平等とは名ばかりで、女性へ社会進出しろと言っても、会社の無理解、子供のことは母親がするという（PTA や病院に連れていくなど）前提があり、女性への負担がただ増しているだけ。男性と同じように働き今まで通り家事もするなんて無理。	〈女性、40 歳代〉
■ 女性のやる気がないとそもそも話にならない。	〈男性、30 歳代〉
■ 各市でどうこうするよりも、各家庭でのしつけや考え方が重要だと思います。	〈女性、50 歳代〉
■ 男女共同参画の周知徹底。知らない人もたくさんいると思うから。	〈女性、50 歳代〉
■ それが男性側の問題でもあるという姿勢の徹底。	〈男性、30 歳代〉
■ パワハラ、セクハラの問題をメディアなどで取り上げて、男女が問題意識を持つための活動をするべき。	〈女性、20 歳代〉
■ 男女平等と女性への配慮が難しい。女性の中には女性は責任を負わないことが当たり前という考えの方もいる。	〈男性、40 歳代〉
■ 価値観の変容は個人の問題だと思うが、中高年への啓蒙活動を更に充実してほしい。	〈女性、50 歳代〉
■ 男女共同参画の事をもっと宣伝すべきだと思う。	〈女性、70 歳代以上〉

■ 性別で格差をつけないように。	〈男性、50 歳代〉
■ 若い人を活用する。	〈女性、40 歳代〉
■ 市民に伝わっていないと意味がないと思う。	〈女性、40 歳代〉
■ 管理者が男女平等を理解すること。	〈女性、30 歳代〉
■ 男女共同参画を具体的に何をしているかわからない。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 男女共同参画は努力義務みたいなものなのでなんの拘束力もなく、これに効果があるとは思えない。	〈女性、20 歳代〉
■ 男女共同参画に対して特別京都市が何か活動しているのかパッと思いつかない。	〈女性、18 歳・19 歳〉
■ 結婚してないから何かあると近所の人に見られる住みにくさ 特に女性の方がいわれる気がします。	〈女性、50 歳代〉
■ このアンケートから男女共同参画の環境づくりをする意図が見えにくい。また、重要なのは本人の意図。社会の風潮による強制や本人の意図の阻止もあってはならないこと。	〈男性、40 歳代〉
■ 男女平等にお金持ちになればそれで問題ないと思います。	〈男性、20 歳代〉
■ 生活に余裕が無いと考えが及ばない領域なので、豊かな国になるのが先決。	〈女性、50 歳代〉
■ 市からの助成金。	〈男性、50 歳代〉
■ 新年に女性職員にだけ晴れ着を着せる市の古い体質から変えてください。	〈女性、40 歳代〉
■ 男性が育児休暇をとりやすくする。	〈男性、40 歳代〉
■ 男性の育休が取れると言われても、結局は取りにくい雰囲気は今までと変わらないと聞く。50 代以上の人の意識がまだまだ変わってないのではと感じます。	〈女性、40 歳代〉
■ ハラスメントなど言った者勝ちの風潮があるので、その方がよほど問題だ。	〈男性、40 歳代〉
■ 男女参画や LGBT や多様性…頭おかしいのか？何で押し付けられて無理矢理強制してくる？やりたいやつだけがやれば良い。	〈男性、40 歳代〉
■ 父親の育児休暇はまだ取りにくい。	〈女性、40 歳代〉
■ 昔と比べたら、女性の立場は向上していると思う。急激な変化より少しづつでも確実に前進して後退しない事が大事だと思う。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男女が全て平等というよりも特性を活かすことを推進にすべきだ。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 男女と区別をする事自体がセクハラ発言。人間として扱って欲しい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男尊女卑の意識がまだまだ残っていると感じることもあり、もやもやとする。	〈女性、20 歳代〉
■ 府庁で勤務していた時にハラスメントに合い、上司に相談したが何も対処してくれなかった。府でもそうだったので、窓口を一般市民向けに作っても解決してくれないのではないかと疑念があります。	〈女性、50 歳代〉

■ 共同参画税金の無駄	〈男性、20 歳代〉
■ 男を軽視してそう。	〈男性、30 歳代〉
■ 役所における女性管理職の増加	〈男性、70 歳代以上〉
■ 男性の家事育児に関わる育児休暇が取りやすい社会になって欲しい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 女性の管理職を増やして欲しい。	〈男性、40 歳代〉
■ 無理に女性管理職を増やさなくてもよい。	〈女性、50 歳代〉
■ 事業の周知	〈男性、60 歳代〉
■ 子供の頃からの意識付けを教える。	〈女性、60 歳代〉
■ 全体的にお年寄りからの意識改革が必要だと思うし、働く女性を支援する施設や制度がもっと実用的な形で実現されることが大切だと思う。	〈女性、40 歳代〉
■ あまり役所が介入しすぎると碌なことがないのは歴史が証明しているので、民間や企業の責任で事を運ぶのがベターでしょう。	〈男性、50 歳代〉
■ 出産で退職する女性も多いので、仕事を続けやすい社会にして欲しい。	〈男性、50 歳代〉
■ 子育てしやすいを広報しているが実際どうなのか見えてこない。男女共同参画は子どもの頃からの教育で意識を変えることが必要。	〈女性、20 歳代〉
■ 表向きには男女平等と言われているが、内面はまだまだ男女差別の時代遅れの会社などが多い。	〈男性、40 歳代〉
■ やっていることが広く知られていないように感じる。	〈女性、70 歳代以上〉
■ もう少し行っていることを宣伝してもいいと思う。	〈女性、20 歳代〉
■ 男女平等以前に賃金格差をなくす方が先。それが女性の地位向上にもつながる。	〈女性、60 歳代〉
■ 介護ロボットや、家事ロボットを作る会社に投資して、それらのロボットを全家庭に配布してください。	〈女性、20 歳代〉
■ 非正規雇用に女性が多いのは、そういう意識があるのでは。	〈男性、50 歳代〉
■ 市の内部から改革をして、世間に知らしめてほしい。	〈女性、50 歳代〉
■ 男女共同参画を意識した教育を小学校からすべきだと思います。	〈女性、50 歳代〉
■ まだまだ周知が足りない。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 京都はまだまだ閉鎖的企業が多く男尊女卑の感覚がぬぐえない。もっと多くの企業で産休育休を取りやすくしてほしい。	〈女性、40 歳代〉
■ いらないものに金を使うな。	〈男性、60 歳代〉
■ 男性の何もしない意識の改革	〈男性、70 歳代以上〉
■ 知らない分からない人への掲示	〈女性、60 歳代〉
■ 京都市はもっとアピールするべきである。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 女性に対する援助がもっとほしい。	〈女性、40 歳代〉
■ 高齢の経営者や上司の価値観を変えるのは大変だと実感する。	〈女性、60 歳代〉
■ 京都は古い考えの方々がまだまだ多いので、今後も気長に対応策を継続して実施していくことが大事だと思う。	〈女性、70 歳代以上〉

■ おもいやりの共有	〈男性、50 歳代〉
■ 女性たちにも従来からの偏見が見受けられることが多い。まず女性たちの意識改革が先決。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 企業に男女の給料の上げ幅、管理職の数など目に見えて分かる比率を分かるように指摘する。	〈女性、30 歳代〉
■ 行政だけでなく、各地域の自治会でも取り組む。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 京都市の実情はよく知りませんが、非正規職は女性の比率が高く、昇進や賃金格差、家事・育児・介護の負担増につながっていると思います。市が率先して女性の正規化、積極的な昇進を進めることで、民間にも男女共同参画を強く指導することができると思います。	〈男性、50 歳代〉
■ 情報をどのように取得したらよいのかわかりにくい。わかりやすい情報発信をしてほしい。	〈女性、50 歳代〉
■ 京都市も色々対策はあると知りましたが、全然周知されてない。もっと、情報を発信すべき。	〈女性、60 歳代〉
■ どこまで役人に信頼できるか。口先ばかりの対応している。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 若い世代の教育も必要だが、中高年の啓もう活動も必要だと思う。	〈男性、50 歳代〉
■ 学校教育において、男子女子が協力しながら調理や裁縫などの家事労働を分担で実習する、家庭においても男子に家事を手伝わせる。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 行政のアリバイ工作にしか見えない。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 子供の時点で手厚い支援を受けられる環境を整えて欲しい。	〈女性、40 歳代〉
■ 我々の年代では、なじみがないので、60 代、70 代への啓もう。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 他の都市に比べ啓発や発信はされているが、まだまだ浸透していない。学校などの教育現場で子どもから学べるようにするのが良いと思う。	〈男性、50 歳代〉
■ 地域内でのボランティアや地区活動を積極的に参加出来るような支援	〈男性、70 歳代以上〉
■ 学区内で会長などは、ほとんど男性になっている。女性が発言しにくい雰囲気がある。京都は、まだまだ古い慣習が残ってるが、若い人達は共働きでかなり男女平等意識が強い。男性が育休を取りやすい環境作りや、啓発を期待します。	〈女性、60 歳代〉
■ 日本の職場においては、一昔前と比べれば男女の共同参画は進んできているように思う。ただ大企業と比べると中小企業での進展や理解は、まだまだのように感じる。今後は、これまでの取組をより推進するとともに、男女の性差や個性を生かした相乗効果で成功している職場事例を発掘し、情報提供していくことも必要なのではないかと思った。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 男女で分けるのではなく、得手不得手で分けるべき。	〈女性、40 歳代〉
■ 男女は違うのだから完全平等でなくても良い。	〈男性、50 歳代〉
■ 差別と区別が曖昧であり、しっかりした定義を示してほしい。	〈男性、70 歳代以上〉
■ もっと告知して広めてほしい。	〈男性、60 歳代〉

■ 日頃から相談しやすい機関や内容のアピールをもっとしてほしい。男性の育児、家事参加が可能になるような働き方改革をもっと具体的に推し進めてほしい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 女性が働きやすい環境にするには、子持ちの女性が安心して外に働きに出えられる環境を作るべきだ。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 現在の取り組みは男女平等というよりは女性上位の社会にしようとしているとしか思えず賛同できない。特に女性枠はナンセンス。お互いの長所を生かして役割分担して上手に共存して暮らせる社会作りが大切だと思う。	〈女性、50 歳代〉
■ 男女二つの性の中でお互いが平等でとなるのは中々難しい問題だと思うが、それぞれの違いを分かり合った上で行える事を増やすのが大事だと考える。	〈女性、60 歳代〉
■ 思いやりのある社会になってほしい。	〈男性、70 歳代以上〉
■ なんかギスギスした嫌な、強制的な感じになってきつつあるように感じる。	〈男性、50 歳代〉
■ 古い因習、風習、男女はこうあるべき姿である等を変えるような考え方を変えて行くような共同参画を行政が行うべきであると思います。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 女性への職業、学業差別の実態を知らせるべき。現実には男性が優遇されている。	〈女性、50 歳代〉
■ 男女平等と謳いながら改善されてない場面が多いので改善してほしい。	〈女性、30 歳代〉
■ ジェンダー平等ではなく男女平等を目指してください。	〈女性、40 歳代〉
■ 男性が育児休暇取得後の職場復帰のしやすさの問題	〈男性、30 歳代〉
■ 特に田舎の高齢者の無意識の性差別に傷ついたことが多い。それがきっかけで地域の活動にも参加しなくなり、悪循環だと感じている。男女共同参画について理想的な活動を行っている企業などを表彰したり、良いことをすると報われるシステムができれば人間の欲も利用して促進していけるのではないかと思う。	〈女性、20 歳代〉
■ 参画という言葉自体がわからない。	〈女性、40 歳代〉
■ 女性の職場での地位向上に取り組む。	〈男性、50 歳代〉
■ 積極的な学校や職場、社会生活における啓発活動	〈男性、60 歳代〉
■ 男女平等は学校等々で教えられても、大人社会は実践されてない。子供だけでなく全世代、全職業も変えて行くべきだと思う。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男尊女卑と言われる世の中だが、実際は女尊男卑であって男性のほうが社会的に不利。特に司法の場ではその傾向が強い。男は男らしく、女は女らしくしていればそれで良い。そもそも少子化問題も女性の社会参加が原因であると私は思う。	〈男性、20 歳代〉
■ 京都市の職員の意識改革	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男女共同参画という名前になって久しいが、女性解放や女性の人権擁護という視点に比重が偏っていると思う。女性ならではの悩みがあるように男性ならではの悩みもあると思う。	〈男性、30 歳代〉
■ 高齢者の意識の変革は難しい。	〈女性、70 歳代以上〉

■ 男女共同参画を進めるなら同時間に参画している場面を考えるべき。その時子供達の状態はどうなっているのか？もしその時、南海トラフ等の災害が起きても一人ぼっちではないだろうか？子達の食事はシッカリとれているだろうか？特に長期休暇は心配。先に子育て中も心配なく働ける環境を先に整えず共同参画を推し進めれば更に少子化がすすみます。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 能力があるが性別を理由に採用されない人に対しては対応すべきだが、性別を理由に能力のない人を採用する必要は全くない。	〈女性、18 歳・19 歳〉
■ 周知	〈女性、70 歳代以上〉
■ 京都市だけでは難しい。日本全体で進めていくべき。	〈女性、60 歳代〉
■ 小学校から意識づけを行う。	〈女性、70 歳代以上〉
■ フランスの様に実施しない企業の税金を高くする。	〈女性、50 歳代〉
■ 根本の意識が変わらないから、変わるように身近にして欲しい。	〈女性、20 歳代〉
■ お互いがお互いを尊重する心を持つことが大事なのである。	〈男性、20 歳代〉
■ 行政がしっかりやってほしい。	〈女性、60 歳代〉
■ 男性女性問わず、性差に関する知見を広めていく必要があると思う。	〈男性、20 歳代〉
■ 男性が、女性に、対する、意識改革が、必要で、もっと、女性も、自己主張をし、平等に、生活が、出来る様に、世の中に、進出すべきだと、思います。スポーツの、世界は、平等な様に、思います♪	〈女性、70 歳代以上〉
■ なんでも平等にすればいいとは思わない。男女で体格が違うのは生物学的にも明らかにも関わらず、それらを無視して平等にしようとしているように感じる事が多々ある。	〈男性、20 歳代〉
■ 職場では女性の方が、業務に対する報酬、昇進、採用などで実質的に優遇されていると思う。真の実力に応じた処遇になっていないのは、正しい、適切な評価軸や評価者がいなかったからだけだと思う。育児休業の取りやすさや、災害や多方面とも調整業務などの負担感の強い業務を自分の意思とは別に配置されているのは男性が多く、実際、男性の不利益が大ききように思う。被害者は女性でなく、男性であるという視点もこの時代の男女共同参画には必要ではないか。	〈男性、30 歳代〉
■ 昔からの習慣（意識）はなかなか変えられない。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男尊女卑なんて言葉がありますが、世の中女尊男卑なことの方が多いと思う	〈男性、20 歳代〉
■ 共働き家庭が増える中、家事、育児はどうしても女性に負担が大きい事はどうすべきかを考えなくてはならない。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男性が育児休暇を取りやすいようにして欲しい。	〈男性、18 歳・19 歳〉
■ 男女の関わり方の最小単位は夫婦であると思うので、まずは夫婦が機能して男女それぞれかわることが必要	〈男性、20 歳代〉
■ 男女平等を小学校から教育していく。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 高校生くらいの年代の時に、いろいろな社会の仕組みなどについての実践教育が必要ではないでしょうか。高齢の女性ほど、陰口はコソコソ言っても、集まりなどの時には何も発	

言しないことが美德だと思っている人が多いです。私は女性が自立できない、悪の根源だと思っています。女性会の組織に対して批判する人は多いですが、にらまれると後が怖いので、言われるままに行動しているという人もおられます。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 職場に於ける男女平等を法律や条例で定める。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 高齢化が進んでいく中において、これからの対策を京都市民全体で語り合える環境が不可欠だと思います。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 意識を変える教育	〈女性、70 歳代以上〉
■ 学校教育の段階で誰もが等しく教育を受け自分の持つ能力を発揮し人の為に役立つ人格形成が培われたら嬉しい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 公的機関による啓発では人の意識は変わらないばかりか反発する人すらいるので期待しておりません。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 男性も女性も育児休暇が十分に取れる制度があると、働きやすくなると思う。	〈女性、18 歳・19 歳〉
■ 行政が行うと言うよりは、社会全般が昔に比べギスギスとした感じがする。もっとアバウトな生き方ができれば人の気持ちも和らぐここの満足度が平等に通じると思う。	〈女性、70 歳代以上〉

② 「配偶者・パートナーからの暴力」及び「困難な状況に対するサポート」に関するもの	
■ 暴力を振るう相手から逃げる選択を取れるために、経済的自立を促す組織を作って欲しい。	〈女性、20 歳代〉
■ 具体的支援があまり見えない。相談しても無理だろうという気分になりそう。	〈女性、40 歳代〉
■ DV の相談窓口があることすら知らない市民がまだまだ多いと思うので、広報活動等を通じて広く周知していく必要がある。	〈男性、50 歳代〉
■ 女性が男性に対して暴力や傷つけるような言葉を何を言っても許されるという風潮が納得いかない。	〈男性、50 歳代〉
■ どこに相談してもちゃんとした対応がなかったためどうしようも無い。	〈男性、40 歳代〉
■ 気軽に相談出来ると言うアピールをもっとしてほしい。	〈女性、60 歳代〉
■ なんでも話を聞く人を置いて、専門の部署と繋いでくれると良いと思う。	〈男性、50 歳代〉
■ 被害を受けた方が罪悪感を抱く事もあると思うので、心のケアと避難の実質的なフォローと両方のサポートをして頂けるとありがたいです。	〈女性、40 歳代〉
■ 相談しやすい環境づくりが重要	〈女性、50 歳代〉
■ 自分が DV を受けているのにマインドコントロールされてしまっているのを感じさせてくれるような情報発信をしてほしい。20 年前の学生時代、どうしたらいいかわからず、困っていた。	〈女性、30 歳代〉
■ 夫婦間の問題は見逃されやすいが、実際は相談する人の何倍もいる。行政はもっと相談が必要な人の窓口を整え、増やしてほしい。	〈女性、70 歳代以上〉

■ 何よりも弱者の手助けになる行政としての仕事の全う。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 気軽に相談しやすいよう女性の相談員も増やすべき。	〈男性、50 歳代〉
■ 実際に困った事に専門的な対応を職員が身に着けているか否か、思いやりの気持ちを持てる職員を育てて欲しい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 完全に秘密・非公開が守れる部署の確保。法律を熟知した職員の配置。	〈男性、70 歳代以上〉
■ DV 対策での警察との連携。	〈男性、40 歳代〉
■ 精神的に病んでる人や気軽に相談できない人のためにも手を差し伸べるべきだ。また、京都市は生活保護受給は廃止にすべきだ。	〈女性、30 歳代〉
■ 気軽に行けるような場所であってほしい。	〈男性、30 歳代〉
■ 公金にたかるような一部の政治的な団体や無駄な NPO を排除して、行政が彼らに丸投げせずに民間団体との業務/責任の境目をしっかりしてできる限り直接サポートできる体制を整えることも。	〈男性、60 歳代〉
■ DV 問題が起きた時に女性が気楽に電話対応できる体制づくり	〈男性、50 歳代〉
■ 気軽に相談できるシステム	〈女性、30 歳代〉
■ DV をする人はその人の育ちや環境による事が多く、親からの負の連鎖もあるので、幼少期より社会の中で育てる意識を持ち核家族化で孤立しない様にする事が必要だと思います。まずは男女共に育休を当たり前にとれる社会作りが必要だと思います。	〈女性、50 歳代〉
■ 本気で向き合ってくれる人を選んでほしい。	〈女性、50 歳代〉
■ 相談しやすい環境	〈女性、40 歳代〉
■ DV を受ける側は自分にも問題があると思い込んだり、DV を受けること自体が恥ずかしいと思って隠したりしている場合が多いと思うので、その意識からの解放が必要だと思います。	〈女性、60 歳代〉
■ 24 時間対応窓口	〈女性、50 歳代〉
■ 制度があるのを知っていたが具体的にはわかりにくい。	〈女性、50 歳代〉
■ 親身になって相談に乗ってあげてほしい。	〈女性、40 歳代〉
■ 事務的ではなく真に接してもらえる人材の確保	〈男性、70 歳代以上〉
■ 気楽に相談できる雰囲気のある場所づくり	〈女性、70 歳代以上〉
■ 相談される側が上の立場ではない。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 弁護士への相談窓口の設置	〈男性、20 歳代〉
■ 女性の孤独からの救出	〈女性、50 歳代〉
■ 私も夫からの『言葉の DV』に悩んだ時期がありました。今は夫が難病を罹患し介護 4 の身…子供のいない私達は介護する側される側で肩寄せ合っています。私も精神 2 級保持者で、夫からの恫喝で過呼吸を起こした時、以前お世話になった NPO 法人に電話をかけました。何をしてもらった訳ではなくても泣きながらの話に耳を傾けてくれはるだけで励みになったことに今でも感謝しています。私よりもっと辛い思いをされてる方が話せる場所や人を沢山設けてほしいです。以前『ひと・まち交流館』の女子トイレに DV 相談窓口カード	

があるのを見た時、よい方法だと感じました。この草の根的な活動も決して無駄ではないと思うので根気強く続けてほしいです。余談ですが私達ヘルプマークで席を譲ってもらえず辛かったり最近の京都では『思いやり』の気持ちが消えつつある気がします。一度基本に立ち戻ることも必要かもしれません。	〈女性、50 歳代〉
■ 気軽に相談できるラインとか、メール受付とかあれば良い。いのちの電話などが有料のナビダイヤルなのはおかしい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 女性ばかりを被害者と考えるではない。	〈男性、30 歳代〉
■ 誰でも気軽に訪れることが出来る場所で周知してほしい。地下鉄とバスにでも周知してほしい。分かりにくいから。	〈女性、20 歳代〉
■ 困りごとがあれば気軽に相談できることを知らない人が多いと思うので、そういう場所をもっと知ってもらえるようにしてほしい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 配偶者以外からの家族(両親やきょうだい)による経済的 DV や、親から生活費を渡されないことにより就活や学業に時間を使えない。その場合のセーフティネットがない。似たような境遇の人たちの自助会のような存在があれば嬉しい。	〈女性、20 歳代〉
■ 行政に話しやすい事	〈男性、30 歳代〉
■ 相談しやすい窓口を作って欲しい。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 性犯罪等の処罰をもっと重くするべき。	〈男性、20 歳代〉
■ 世間体を気にして何度も離婚を申し出たが。現在は二人とも高齢者になり諦めとどちらが先の亡くなるか悶々と金婚式を迎えようとしています。	〈女性、70 歳代以上〉
■ 本当に困っている人が気軽に相談できる場所の設置	〈女性、70 歳代以上〉

③ その他	
■ 高齢者施設でのハラスメントが、一方的か勝手に施設側が判断している。行政の場で高齢者、施設双方が意見を交わす場が必要。高齢者もメモをするなど、防衛しないと施設側が、内部でいいように扱っている。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 少し内容は違うかもしれませんが。子育て支援に力を入れて欲しい。	〈女性、40 歳代〉
■ いわゆる LGTBQ の人達が望む社会参画のあり方や法律・行政に望んでいることと、マスメディアの好奇的扱いにはギャップがあるように思う。	〈男性、70 歳代以上〉
■ 男女平等の前に市政に関わる人を変えないと現状維持の人が多すぎて市が赤字で無くなる。	〈男性、30 歳代〉
■ 役所の窓口は使いづらい。	〈女性、60 歳代〉
■ 地方の出ですが何かわたしたちに対応の雰囲気の違いが、それだけ京都はすごいのですか？といいたくなります。特に行政の方に多いですね。下に見られてると感じる事が多いです。	〈女性、70 歳代以上〉
■ まず京都市の財政難を改善すべき。	〈男性、18 歳・19 歳〉
■ ヨガ教室や太極拳教室の様な健康に良い教室に支援して、1 回の又は 1 か月の費用を安く参加できる様に、応援する。	〈女性、70 歳代以上〉

令和 6 年度男女共同参画市民意識調査

発行年月日 令和 6 年 1 2 月

京都市 文化市民局 共生社会推進室

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 4 8 8 番地

分庁舎地下 1 階

TEL (075) 222-3091 / FAX (075) 366-0139